

# デンソーロボット

直角座標型  
XYC-4D シリーズ

設置・保守ガイド

Copyright © 2002 DENSO WAVE INCORPORATED  
All rights reserved.

この取扱説明書の著作権は、株式会社デンソーウェーブにあります。

本書に掲載されている会社名や製品は、一般に各社の商標または登録商標です。

仕様は予告なく変更することがあります。

# はじめに

デンソーロボットをお買い上げいただき、誠にありがとうございます。

この製品は当社の技術を結集した、高速・高密度でかつ高度な機能を備えた「組立て用ロボット」です。ご使用にあたっては、本書をよく読み理解のうえ、安全で効率的な運用をお願いします。

## 本書が扱うロボットシリーズ／モデル

シリーズ	型式 (モデル)
XYC-4D シリーズ (直角座標ロボット)	XYC-40***D-L XYC-40***D-R

(注1) 上記型式はセット型式です。ロボット本体の型式は後尾に「M」が付きます。

例：セット型式      XYC-40\*\*\*D-L  
      ロボット本体型式   XYC-40\*\*\*DM-L

(注2) \*は各ロボットの対象軸のストロークを示す数字がはいるります。

(注3) XYC-4D シリーズには付加軸仕様ロボット (最大2軸追加) の設定があります。  
付加軸仕様ロボットについては、「取扱説明書 追補版：品番 410002-6080」を参照してください。

## お願い

ご使用の前に、「安全にご使用いただくために」をお読みいただき、正しく安全にデンソーロボットをお使いください。

## 取扱説明書の構成

本製品に関する取扱説明書は、以下のように構成されています。

本製品を初めて導入された場合は、すべての取扱説明書をお読みになり、よく理解してから使用してください。

ロボット概要書	ロボットの仕様および構成について説明します。
設置・保守ガイド（本書）	ロボット構成機器の設置、仕様変更および保守点検について説明します。
入門編	デンソーロボットの概要から、ティーチングペンダントを使って操作する方法およびWINCAPSIIを使ってプログラムを作成する方法まで、具体的な設備事例を取り上げて説明しています。ロボットの基本的な使い方を習得したい場合にお使いください。
操作ガイド	ティーチングペンダント、オペレーティングパネルおよびミニペンダントによる、ロボットの基本操作と補助機能について説明します。
WINCAPS II ガイド	ロボットおよびロボットコントローラにパソコンを接続して、プログラムの開発と管理を行なう、パソコン教示システム的使用方法について説明します。
プログラミングマニュアル (I)、(II)	プログラム言語であるPACについて、そしてPACによるプログラムの作成方法、コマンド仕様について説明します。
RC5 コントローラ インタフェース説明書	RC5コントローラの概要、外部機器とのインタフェース、汎用・専用入出力信号、および入出力回路について説明します。
エラーコード表	ロボットやWINCAPS II でエラーが発生した際、ティーチングペンダント、オペレーティングパネルまたはパソコン画面に表示されるエラーコードの一覧です。その解説・処置方法もまとめてあります。
オプション機器説明書	ロボットのオプション機器の仕様や操作について説明します。

## **本書の構成**

本書の構成は、以下のようになっております。

### **安全にご使用いただくために**

ロボットを安全にご使用いただくための注意事項をまとめてあります。ご使用前に、必ずお読みください。

### **第1章 ロボット構成機器の設置**

ロボットを設置する場合の設置環境、設置方法および注意点などについて説明します。

### **第2章 ロボットの仕様変更**

ロボットが動作する範囲を変更する方法について説明します。

### **第3章 保守点検**

ロボットの性能と機能を維持するための保守点検作業について説明します。



## 安全上のご注意

安全にご使用いただくために、以下の注意事項は必ずお守りください。

警告・注意表示は、デンソーロボットを安全に正しくお使いいただき、操作者や他の作業者を含む人への危害あるいは他の設備への物的損害を未然に防ぐために守らなければならない事項を示しています。

これらの表示レベルと意味は次のようになっています。内容をよく理解してから本文をお読みください。

 <b>警告</b>	この表示を無視して誤った取扱いをすると、死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。
 <b>注意</b>	この表示を無視して誤った取扱いをすると、傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害の発生が想定される内容を示しています。

### 用語と定義

**最大可動範囲 (Maximum space):** エンドエフェクタ、ワークピース、アタッチメントなどロボットを構成するすべての部位の移動範囲について、設計上考えられる最大空間を指します。(Quoted from the RIA\* Committee Draft.)

**可動制限範囲 (Restricted space):** 機械的なストッパ等の移動範囲限定装置によりロボットの移動範囲が制限された空間を指します。その限定装置を有効にしたときロボット本体、エンドエフェクタ、およびワークピースが移動できる最大距離が、このロボットの可動制限範囲の境界を決めることとなります。(Quoted from the RIA Committee Draft.)

**可動範囲 (Motion space):** ソフトウェア的手段によって制限された、ロボットの可動空間を指します。ソフトウェア的手段が設定されたときロボット本体、エンドエフェクタ、およびワークピースが移動できる最大距離が、このロボットの可動範囲の境界を決めることとなります。(The "motion space" is Denso-proprietary terminology.)

**動作範囲 (Operating space):** ロボットをタスクプログラムによって実際に操作するとき、そのロボットの制限動作範囲をいいます。(Quoted from the RIA Committee Draft.)

**タスクプログラム (Task program):** ロボットに目的の移動あるいはそれに伴う機能を行わせるための命令の集合、つまり(アプリケーション)プログラムをいいます。(Quoted from the RIA Committee Draft.)

(\*RIA: Robotic Industries Association)

## 1 産業用ロボットの 「特別教育」の受講

産業用ロボットのティーチング・点検・調整・修理等に従事する作業者は「労働安全衛生法第59条および関連省令等」に定める産業用ロボットの「特別教育」の受講が義務づけられていますので、必ずこの「特別教育」を受講してください。

## 2 設置上の注意

### 2.1 適切な設置環境の確保

#### ■ 標準タイプ

標準タイプは、防爆・防塵・防滴等の仕様にはなっていないので、次のような場所に設置することはできません。

- (1) 可燃性ガス・引火性液体等の雰囲気
- (2) 金属加工の削りクズ等導電性物質が飛散している雰囲気
- (3) 酸・アルカリ等の腐食性ガスの雰囲気
- (4) 切削液・研削液等のミスト雰囲気
- (5) イオウ含有の切削液・研削液等のミスト雰囲気
- (6) 大型のインバータ、大出力の高周波発信器、大型のコンタクタ、溶接機などの電気ノイズ源の近傍

#### ■ 防塵防滴タイプ

防塵防滴タイプは、JIS B8438、IP54相当の防塵・防滴構造になっています。（ただし、HS-E-W型はIP65、VM-D-W型およびVS-E-W型の手首部はIP65相当）

ただし、ロボットコントローラは、防塵・防滴構造ではありません。

ミスト雰囲気等の環境で使用する場合は、ロボットコントローラ保護ボックス（オプション設定）をご使用ください。

防塵防滴タイプは、防爆構造ではありませんので、次のような場所に設置することはできません。

- (1) 可燃性ガス・引火性液体等の雰囲気
- (2) 酸・アルカリ等の腐食性ガスの雰囲気
- (3) 大型のインバータ、大出力の高周波発信器、大型のコンタクタ、溶接機などの電気ノイズ源の近傍
- (4) 液体に没する場所
- (5) 研削加工等、小さい削りクズの発生する雰囲気
- (6) 弊社推奨切削油以外での雰囲気  
弊社推奨切削油：ユシロンオイルNo. 4C（不水溶性）
- (7) イオウ含有の切削液・研削液等のミスト雰囲気

### 2.2 作業空間の確保

ロボット本体および周辺機器は、ティーチング・保守点検等の作業を安全に行なうための作業空間を、十分に確保して、設置してください。

**2.3 制御装置はロボット可動制限範囲の外へ設置**

ロボットコントローラ・オペレーティングパネル・ティーチングペンダントおよびミニペンダントの設置場所は、ロボットの可動制限範囲の外で、かつロボットの作業が見渡せる場所で操作できる場所に設置してください。

**2.4 計器類の設置**

圧力計・油圧計その他の計器は、作業者の見やすい場所に設置してください。

**2.5 電気配線・油空圧配管の保護**

電気配線・油空圧配管が、損傷を受けるおそれのある場合は、覆い等を設け保護してください。

**2.6 D種接地の確保**

ロボット用電源の電源アースはD種接地（接地抵抗100Ω以下）としてください。

**2.7 非常停止スイッチの設置**

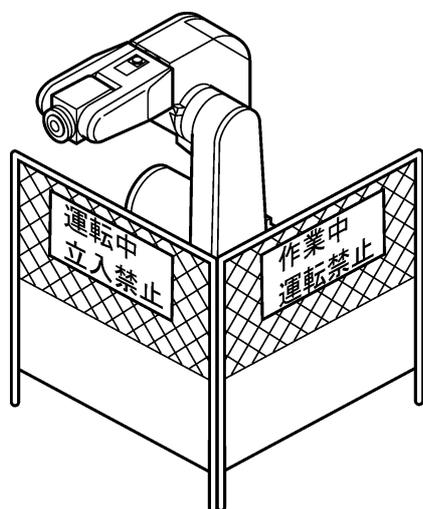
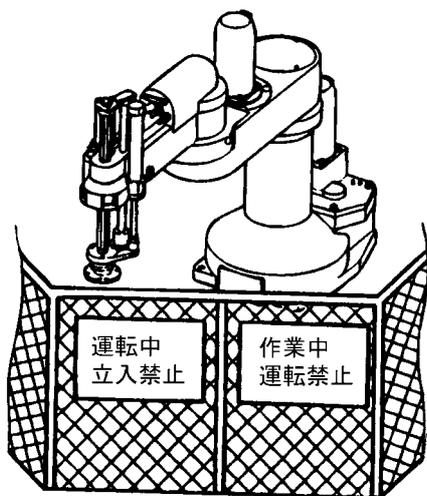
非常の際に、ただちにロボットの運転を停止できるよう、作業者が容易に操作できる位置に非常停止スイッチを設置してください。

- (1) 非常停止スイッチは、赤色にしてください。
- (2) 非常停止の機能は、作動したあと自動的に復帰せず、また他の作業者が不用意に復帰させることができないようにしてください。
- (3) 非常停止スイッチは、電源スイッチとは別個に設けてください。

**2.8 運転状態表示灯の設置**

ロボットが単に一時停止しているのか、非常・異常停止しているのかが、作業者に判るように、見やすい位置に表示灯を設置してください。

## 2.9 安全柵または囲いの設置



作業者および第三者が安易にロボットの可動制限範囲内に立ち入らないよう、必ず安全柵または囲いを設置するか、2.10項の措置を実施してください。安全柵または囲いは、以下の条件を守って設置してください。

- (1) 柵または囲いは、容易に移動できない構造にしてください。
  - (2) 柵または囲いは、運転中に外力によって、容易に破損や変形しない構造にしてください。
  - (3) 柵または囲いは、出入口を定め、これ以外の箇所から作業者および第三者が、乗り越えて侵入できないなど容易に入れない構造にしてください。
  - (4) 柵または囲いは、手など身体の一部が入らない構造にしてください。
  - (5) 柵または囲いの出入口には、次のいずれかの措置を講じてください。
    - ① 柵または囲いの出入口には、扉・ロープ・鎖等を設け、これらを開け、または外した場合に非常停止装置が自動的に作動するインターロック機構を設けてください。
    - ② 柵または囲いの出入口に「**運転中立入禁止**」および「**作業中運転禁止**」などの旨の表示を行ない、作業者にその趣旨の徹底を図ってください。
- 柵または囲いの設置前に試運転等でロボットを動作させる場合には、可動制限範囲内に作業者を立ち入らせないように、可動制限範囲外で、かつロボットの作動を見渡せる位置に監視人を配置し、監視業務に専念させてください。

## 2.10 ロープまたは鎖の設置

2.9項の措置が取れない場合、ロープまたは鎖を可動制限範囲の外側に張り、作業者および第三者が安易に可動制限範囲内に立ち入れないようにしてください。

- (1) 支柱は容易に動かないものにしてください。
- (2) ロープまたは鎖の存在が、周囲から容易に識別できるものにしてください。
- (3) 見やすい位置に「**運転中立入禁止**」および「**作業中運転禁止**」などの旨の表示を行ない、作業者にその趣旨の徹底を図ってください。
- (4) 出入口を定めて、出入口には2.9項の(5)に示す措置を講じてください。

## 2.11 ロボットの可動範囲の設定

ロボットがその作業を行なうのに必要な領域を動作範囲といいます。

ロボットの可動範囲が動作範囲より大きい場合、他の装置との衝突を防止するために、可動範囲を狭く設定することをお勧めします。

【参照】設置・保守ガイド 第2章

## 2.12 ロボットの改造禁止

ロボット本体・ロボットコントローラおよびティーチングペンダント等の改造は絶対に行なわないでください。

## 2.13 作業工具の清掃等の措置

溶接ガン・塗装用ノズル等の作業工具を先端部に有するロボットで、作業工具の清掃等を行なう必要のあるものについては、当該作業が自動的に行なわれるようにすることが望まれます。

## 2.14 照度の確保

作業を安全に行なうために必要な照度を確保してください。

## 2.15 把持した物の飛来等の防止

ロボットが把持した物の飛来・落下等によって作業者に危険を及ぼすおそれがあるときは、物の大きさ・重量・温度・化学的性質等を勘案し、適切な防護措置を講じてください。

## 2.16 警告シールの貼り付け

ロボットの構成品として同梱されている「警告シール」を、安全柵の出入口等の見やすい位置に貼り付けてください。



### 3 作業上の注意



警告：

動作中のロボットに接触すると重傷を負う恐れがありますので、必ず以下のことを守り、3.1以降の注意に従って作業を行なってください。



**警告**

動くロボットに接触すると、重傷を負うことがあります。

- 自動運転中は、安全防護柵内に立ち入らないこと。
- もし安全防護柵内に立ち入る場合は、非常停止ボタンを押すこと。



**警告**

動くロボットに接触すると、重傷を負うことがあります。

- 自動運転中は、安全防護柵内に立ち入らないこと。
- もし安全防護柵内に立ち入る場合は、非常停止ボタンを押すこと。

- ① ロボット運転中およびモータ電源が入っているときは、絶対にロボットの可動制限範囲に入らないでください。
- ② 異常処置等のため、ロボットの可動制限範囲に立ち入る場合は、非常停止装置を作動させる等により、ロボットのモータ電源を必ず切ってください。
- ③ ティーチングや保守点検等のためやむを得ずロボットの可動制限範囲内で、運転を伴う作業を行なう場合、必ず「3.3可動制限範囲内で作業を行なう作業者の安全確保」に示す措置を講じてください。

#### 3.1 「作業規定」の作成と作業者への徹底

ティーチングや保守点検などのために、ロボットの可動制限範囲内で作業を行なう場合は以下の事項について「作業規定」を定め、作業者に徹底を図ってください。

- (1) 起動方法・スイッチの取扱方法等の作業において必要となるロボットの操作の手順
- (2) ティーチングなどの作業を行なう場合のロボットの速度
- (3) 複数の作業者に作業を行なわせる場合の合図の方法
- (4) 異常時に作業者がとるべき異常の内容に応じた措置
- (5) 非常停止装置等が作動しロボットの運転が停止したあと、これを再起動させるために必要な異常事態の解除の確認・安全の確認等の措置。
- (6) 上記以外に、ロボットの不意の作動による危険または、ロボットの誤操作による危険を防止するために必要な次に掲げる措置
  - ① 操作盤への表示（次ページの3.2項参照）
  - ② 可動制限範囲内で作業を行なう作業者の安全確保（次ページの3.3項参照）
  - ③ 作業位置・姿勢の徹底  
ロボットの動きが常時確認でき、かつ異常時にすぐ退避できる位置および姿勢

- ④ ノイズ防止対策の実施
- ⑤ 関連機器の操作者との合図の方法
- ⑥ 異常の種類および判別方法

「作業規定」はロボットの種類・設置場所・作業内容に応じた適切なものとしてください。

「作業規定」の作成にあたっては、関係作業員・設備メーカーの技術者・労働安全コンサルタント等の意見を取り入れるように努めてください。

### 3.2 操作盤への表示

作業中は、当作業に従事している作業員以外の者が起動スイッチ・切り替えスイッチ等を不用意に操作することを防止するため、オペレーティングパネル・ティーチングペンダント・ミニペンダントおよび操作盤に、作業中である旨のわかりやすい表示をしてください。場合によっては、操作盤のカバーに施錠する等の措置を講じてください。

### 3.3 可動制限範囲内で作業を行なう作業員の安全確保

ロボットの可動制限範囲内で作業を行なうときは、異常時にただちにロボットの運転を停止することができるように、次のいずれかの措置を講じてください。

- (1) ロボットの可動制限範囲外でかつロボットの作動を見わたせる位置に監視人を配置し、監視業務に専念させて次の事項を行なわせてください。
  - ① 異常の際にただちに非常停止装置を作動させる。
  - ② 作業従事者以外の者をロボットの可動制限範囲内に立ち入らせない。
- (2) 非常停止スイッチ（ティーチングペンダント・ミニペンダントではロボット停止ボタン）をすぐ押せるように可動制限範囲内の作業員に携帯させてください。

### 3.4 ティーチング等の作業開始前の点検

ティーチング等の作業を開始する前に次の事項を点検し、異常を認めたときは、ただちに補修その他必要な措置を講じてください。

- (1) 外部電線の被覆または外装の損傷の有無
- (2) ロボットの作動の異状の有無（作動時に異常な音、振動がないか）
- (3) 非常停止装置の機能
- (4) 配管からの空気または油漏れの有無
- (5) ロボットの可動制限範囲内またはその付近の障害物の有無

### 3.5 残圧の開放

空気系統部分の分解・部品交換等の作業を行なうときは、あらかじめ駆動用シリンダ内の残圧を開放してください。

### 3.6 確認運転時の注意

確認運転を行なう場合は、作業者はできる限り可動制限範囲の外に出て、行なってください。

### 3.7 自動運転時の注意

#### (1) 起動時の措置

ロボットを起動させるときは、あらかじめ次の事項を確認するとともに一定の合図を定め、関係作業者に対し合図を行なってください。

- ① ロボットの可動制限範囲内に人がいないこと。
- ② ティーチングペンダント・工具等が所定の位置にあること。
- ③ ロボットまたは関連機器の異常を示すランプ等による異常表示がされていないこと。

#### (2) 自動運転時の確認ランプ等による自動運転中であることを示す表示がされていることを確認してください。

#### (3) 異常発生時の措置

ロボットまたは関連機器に異常が発生し応急処置のため可動制限範囲内に立ち入るときは、非常停止装置を作動させる等によりロボットの運転を停止させ、起動スイッチに作業中である旨の表示をする等、作業者以外の者がロボットを操作することを防止するための措置を講じてください。

### 3.8 修理時の注意

#### (1) 定められた範囲以外の修理は行なわないでください。

#### (2) いかなる場合においても、インターロック機構を取りはずさないでください。

#### (3) 電池の交換等のためにロボットコントローラの蓋を開くときは、必ずロボットコントローラのパワースイッチを切って、電源ケーブルを取りはずしてください。

#### (4) 補修用の部品は必ず当社指定のものをご使用ください。

#### 4 日常点検・定期点検の実施

- (1) 日常点検および定期的な点検は必ず実施し、作業の前にロボットおよび関連機器に異常が無いことを確認してください。異常を認めた場合はただちに補修その他必要な措置を講じてください。
- (2) 定期的な点検または補修等を行なったときは、その内容を記録し、3年以上保存してください。

#### 5 フロッピーディスクの管理

- (1) ロボットの構成品として、同梱されている「初期設定フロッピーディスク」は、大切に保管してください。そのロボット固有のデータが記録されています。
- (2) ティーチング終了時および変更後には、プログラム等のデータは必ずフロッピーディスクにセーブする習慣をつけてください。ロボットコントローラ内のデータが、バックアップ電池の寿命等で消失した場合にも、復旧が容易にできます。
- (3) ロボットの作動プログラムが記憶されているフロッピーディスクには、その内容を表示してください。間違ったフロッピーディスクを選択しないよう、必要な措置を講じてください。
- (4) フロッピーディスクは、ほこり・湿度・磁力線等の影響をうけて、誤動作することのないように、管理してください。



# 目次

はじめに	i
取扱説明書の構成	ii
安全上のご注意	1
<b>第1章 ロボット構成機器の設置</b>	<b>1</b>
1.1 適切な設置環境の確保	1
1.1.1 設置環境の条件	1
1.1.2 周囲温度・湿度	2
1.1.3 振動	2
1.1.4 ロボット本体とロボットコントローラの接続	2
1.1.5 ロボット本体の設置環境	2
1.2 ロボット本体の設置方法	5
1.3 ロボットコントローラの設置方法	9
1.3.1 ロボットコントローラ取付板の準備	9
1.3.2 ロボットコントローラの設置	11
1.4 ロボット本体の電気配線、エア配管方法	13
1.5 ロボットハンド設計上の注意点	16
<b>第2章 ロボットの仕様変更とは</b>	<b>19</b>
2.1 ロボットの仕様変更とは	19
2.2 ソフトウェアリミット	20
2.2.1 ソフトウェアリミットとは	20
2.2.2 ソフトウェアリミットの出荷時の設定値	21
2.2.3 ソフトウェアリミットの変更例	22
2.2.4 ソフトウェアリミットを変更するときの注意点	23
2.2.5 ソフトウェアリミットの変更手順	23
2.3 CALSET	26
2.3.1 CALSET とは	26
2.3.2 CALSET の方法	27
2.3.3 CALSET の操作方法	29
2.4 最適可搬質量設定機能	35
<b>第3章 保守点検</b>	<b>36</b>
3.1 保守点検作業の種類と目的	36
3.2 日常点検	37
3.2.1 日常点検整備の実施	37
3.3 3ヶ月点検	39
3.3.1 3ヶ月点検とグリスの補給	39
3.3.2 ロボットコントローラ冷却ファンフィルタの清掃	40
3.3.3 グリスの補給	45
3.4 2年点検	46
3.4.1 電池交換	46
3.4.2 エンコーダバックアップ電池の交換	47
3.4.3 メモリバックアップ電池の交換	49
3.4.4 次回点検日の設定	53
3.5 保守用消耗品と推奨工具	54
3.5.1 消耗品と必要工具・装置	54
3.5.2 推奨工具	54
3.6 ヒューズの交換	55
3.6.1 ヒューズの交換方法	57

3.7	出力用 IC の交換	61
3.7.1	出力用 IC の交換	63
3.8	動作／積算距離の確認	66
3.8.1	動作／積算距離の表示	66
3.8.2	動作距離のリセット	68
3.9	通電時間および稼動時間の確認／リセット	70
3.9.1	通電時間の確認	70
3.9.2	通電時間および稼動時間のリセット	72
3.10	初期設定フロッピィディスクの使用方法	75

## 索引

# 第1章 ロボット構成機器の設置

## 1.1 適切な設置環境の確保

ロボット本体およびロボットコントローラを設置するにあたっては、「安全にご使用いただくために」の「2 設置上の注意」の各項目に、使用環境が合っていること、また使用場所の周囲の環境が、以下に説明するように、各機器の仕様に合っていることを確認してください。また、振動によって機器が影響を受けないように配慮してください。

設置環境が適切でないと、機能や性能が十分発揮されないばかりでなく、機器の寿命を縮めたり、思わぬ故障の原因となったりすることがあります。

### 1.1.1 設置環境の条件

XYC-4Dシリーズロボットは、防爆・防塵・防滴等の仕様になっていませんので、次のような場所に設置することはできません。

- (1) 可燃性ガス・引火性液体等の雰囲気
- (2) 金属加工の削りクズ等導電性物質が飛散している雰囲気
- (3) 酸・アルカリ等の腐食性ガスの雰囲気
- (4) 切削液・研削液などのミスト雰囲気
- (5) イオウ含有の切削液・研削液等のミスト雰囲気
- (6) 大型インバータ、大出力の高周波発振器、大型のコンタクタ、溶接機などの電気ノイズ源の近傍

## 1.1.2 周囲温度・湿度

動作時の周囲温度は、0～40℃の範囲にしてください。  
湿度は90%以下で、結露しないように保ってください。

## 1.1.3 振動

過度の振動や衝撃が加えられる環境での設置は避けてください。

## 1.1.4 ロボット本体とロボットコントローラの接続

ロボット本体とロボットコントローラは、セットで調整して出荷しています。  
複数台のロボットをご購入の場合、ロボット本体とロボットコントローラの組み合わせを間違わないようにしてください。

注意：ロボット本体とロボットコントローラのシリアルナンバーが、同じ組み合わせになっています。シリアルナンバーの表示位置は、ロボット本体はロボット概要書「3.2 外形寸法と動作範囲」を、ロボットコントローラはロボット概要書「4.2 外形寸法」を参照してください。

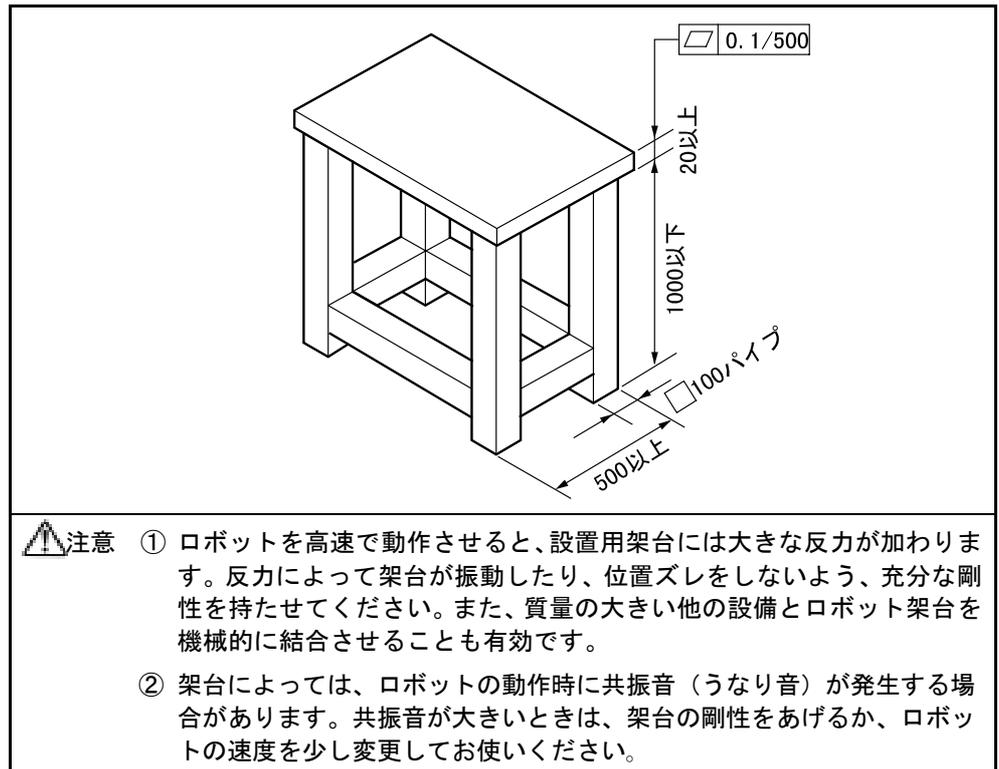
## 1.1.5 ロボット本体の設置環境

ロボット本体の設置環境を、次ページ表に示します。また、設置用架台は、4ページ図を参考に、十分な剛性のものを準備してください。

 注意：ロボットを含む設備に電気溶接は行なわないでください。モータエンコーダやロボットコントローラに大電流が流れ、故障する危険があります。どうしても電気溶接を行なう場合は、設備から、ロボット本体とロボットコントローラを一旦取りはずしてください。

ロボット本体の設置環境・条件

項目	環境・条件
設置用架台の平面度	0.1/500mm (次ページ図を参照)
設置用架台の剛性	鉄鋼材料を使用すること (次ページ図を参照)
設置方向	床置き
周囲温度	運 転 時 : 0~40℃ 保管・運送時 : -10~60℃
湿度	運 転 時 : 90%以下 (結露不可) 保管・運送時 : 75%以下 (結露不可)
振動	運 転 時 : 4.9 m/s <sup>2</sup> (0.5G) 以下 保管・運送時 : 29.4 m/s <sup>2</sup> (3G) 以下
安全な設置環境	<ul style="list-style-type: none"> <li>・可燃性ガス・引火性液体等の雰囲気でないこと</li> <li>・酸・アルカリ等の腐食性ガスの雰囲気でないこと</li> <li>・大型インバータ、大出力の高周波発振器、大型のコンタクタ、溶接機などの電気ノイズ源が近くでないこと</li> <li>・金属加工の削りクズ等導電性物質が飛散している雰囲気でないこと</li> <li>・切削液・研削液などのミスト雰囲気でないこと</li> <li>・水、油、削りクズが直接かからないこと</li> </ul>
作業スペース等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・点検、分解のためのスペースが充分確保されていること</li> <li>・ロボット背後に配線スペース (230mm以上) をとり、ケーブルの自重が直接コネクタにかからないように、取付面あるいは梁に配線を固定すること</li> </ul>
接地条件	D種接地 (接地抵抗100Ω以下)



床置きロボットの設置用架台例

## 1.2 ロボット本体の設置方法

 注意：ロボットの運搬・設置を行なう場合は「安全にご使用いただくために」の「2 設置上の注意」と本章を必ずお読みください。

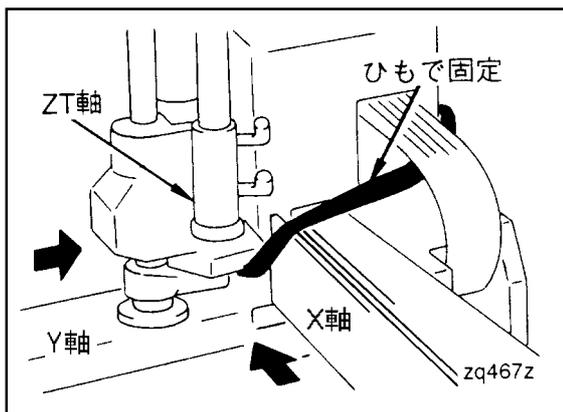
### [ 1 ] ロボット本体の運搬

ロボットの運搬は必ず3人以上で作業を行なってください。ロボットの質量は、約66kg（最も重い型式XYC-40593DMの場合）です。

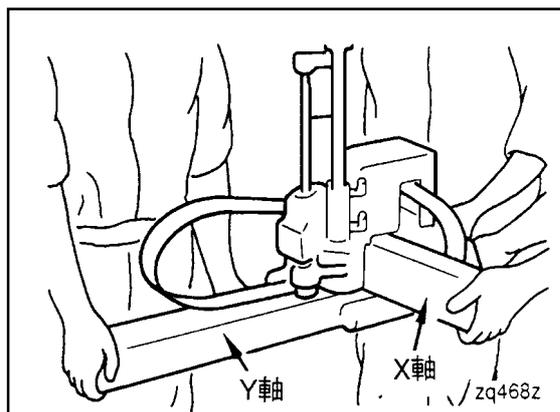
ヘルメット・安全靴・手袋を着用し、以下の運搬手順で運搬してください。

- ① モーターケーブルおよびエンコーダケーブルはロボット本体からはずしてください。
- ② ZT軸を下図の矢印方向に動かしメカエンドに押しあてます。
- ③ ひも等を使用し、ZT軸が動かないように固定してください。
- ④ ロボットが転倒しないようにX軸先端を支えながら、Y軸の固定ボルトをはずしてください。
- ⑤ 3名以上でロボット本体を持ち上げ、設置場所に移動してください。  
ロボットはX軸・Y軸のZT軸側が重いため、平衡を取りながら、安全に運搬してください。

 注意：・樹脂カバー部は変形・破損のおそれがありますので、手で持たないでください。  
・ロボットの運搬方向に障害物がないことを確認してください。



ZT軸の固定



運搬方法

- ⑥ ロボットを設置場所に下ろし、ロボットをボルト4本を使用し仮止めしてください。
- ⑦ ロボット設置方法に基づき固定してください。

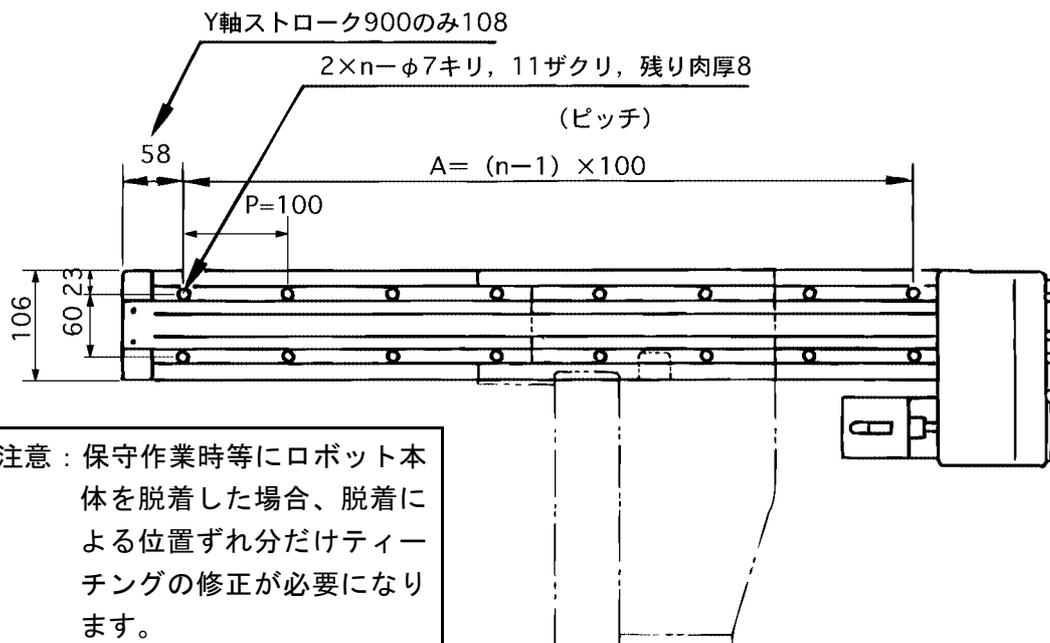
 注意：このとき、モータケーブルとエンコーダケーブルを忘れずに取付けてください。

## [ 2 ] ロボットの設置方法

- ① 設置台のロボット固定位置に下図の寸法に従って、ボルト穴を  $(2 \times n)$  ヶ所 M6を開けてください。
- ② ロボットの運搬方法に従って、固定位置に置いてください。
- ③ 六角穴付きボルトM6×18を締め付けトルク  $14.7 \pm 2 \text{ N} \cdot \text{m}$ で締め付けてください。

注意：このとき、 $(2 \times n)$  ヶ所すべてを締め付けてください。すべてのボルトを締め付けていないとY軸フレームの取付け剛性が低下し、ロボットのサーボ系の発振の原因となります。ロボット取付が原因によるトラブルの対策および保証は、応じかねますので取付部の設計の際は特にご注意ください。

Y軸ストローク (mm)	A (mm)	n
300	500	6
400	600	7
500	700	8
600	800	9
700	900	10
900	1000	11



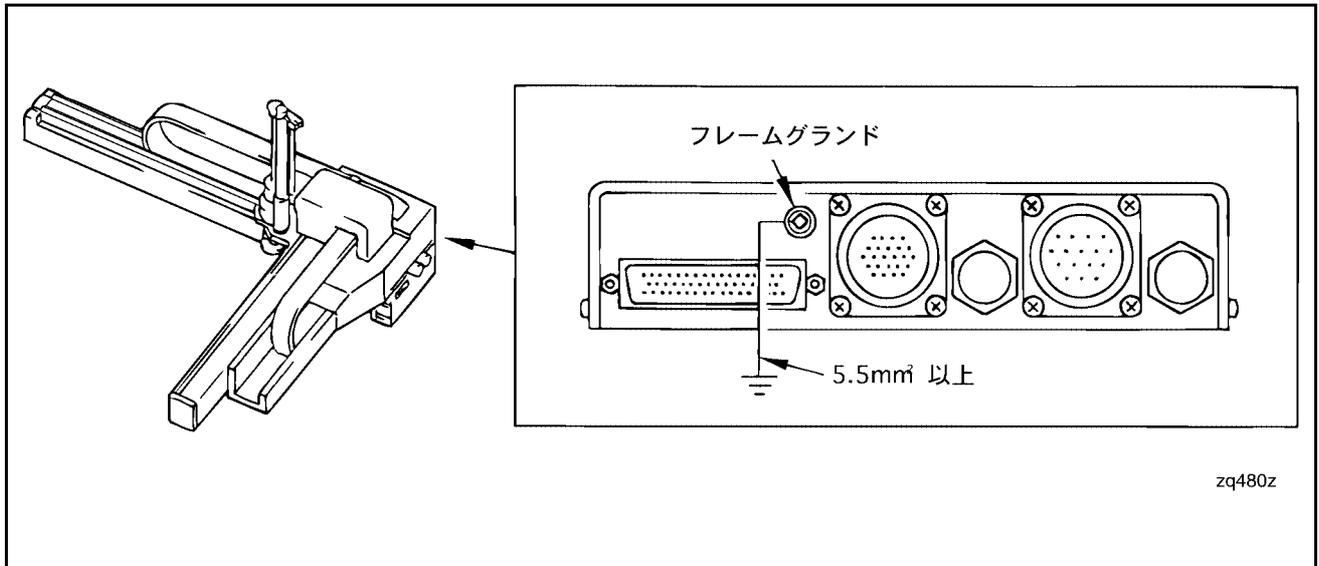
zq458z

XYC型の固定ボルト位置

### [ 3 ] ロボット本体の接地

ロボット本体のアースターミナルを、5.5mm<sup>2</sup>以上の配線で接地してください。

注意：接地線と接地極は、専用のものを使ってください。他の電力、動力、溶接機などと共用しないでください。



ロボット本体の接地

## 1.3 ロボットコントローラの設置方法

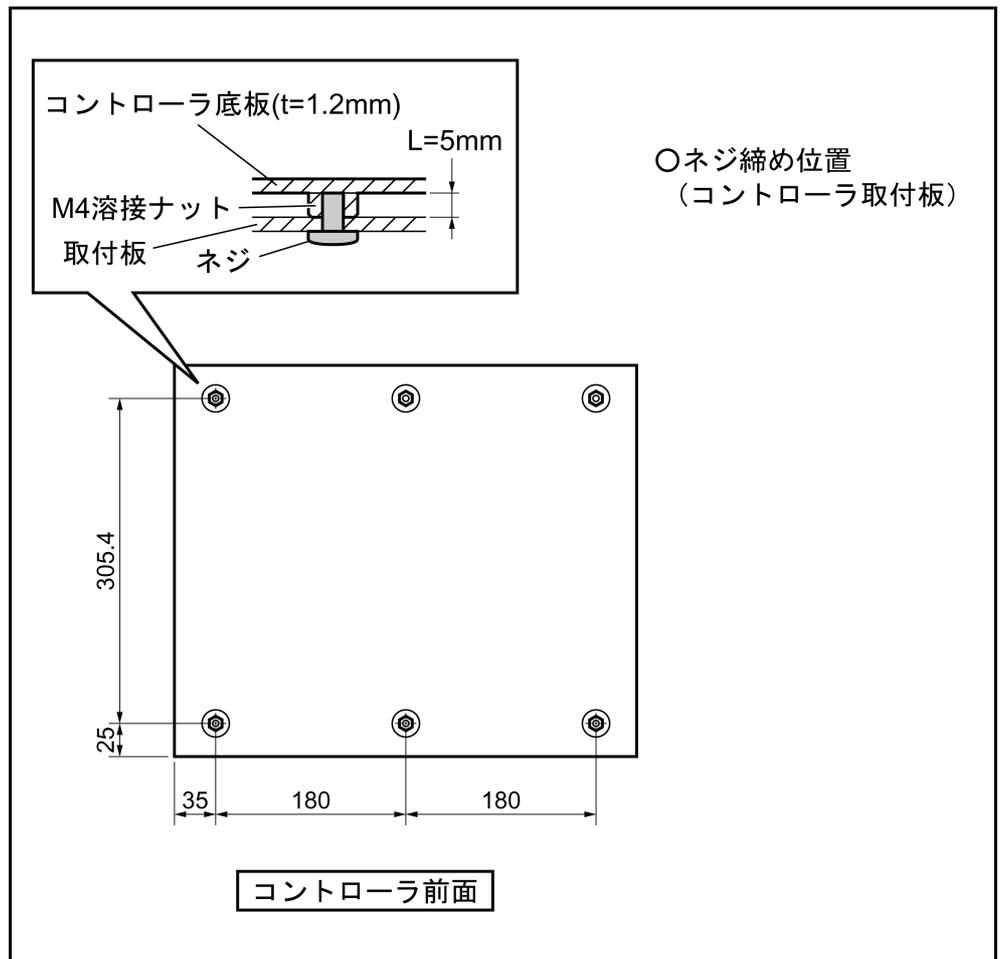
ロボットコントローラは、「1.3.1 ロボットコントローラ取付板の準備」で説明するロボットコントローラ取付板に固定し、自立据え置き型または壁掛け型のいずれかの方法で設置します。

 **注意**：ミスト雰囲気中でロボットコントローラを使用する場合は、オプションのロボットコントローラ保護ボックスを使ってください。  
ロボットコントローラは、防塵・防滴・防爆構造にはなっていません。

### 1.3.1 ロボットコントローラ取付板の準備

- (1) ロボットコントローラの取付用ネジ穴の位置寸法を、次図に示します。  
“○”マークのM4ナット溶接部はコントローラを取付板に固定するために使用します。
- (2) 十分な大きさの取付板を準備し、次図に示す“○”マーク部6ヶ所のナット溶接部にM4のネジ6本で固定してください。

 **注意** ① ロボットコントローラ取付用ネジの長さは、取付板厚+5mm以下にしてください。5mm以上あると、ナット溶接部が破損するおそれがあります。  
② ロボットコントローラの取り付けは、必ず6ヶ所のナット溶接部すべてを固定してください。



ロボットコントローラ取付用ネジ穴位置(ロボットコントローラ底面図)

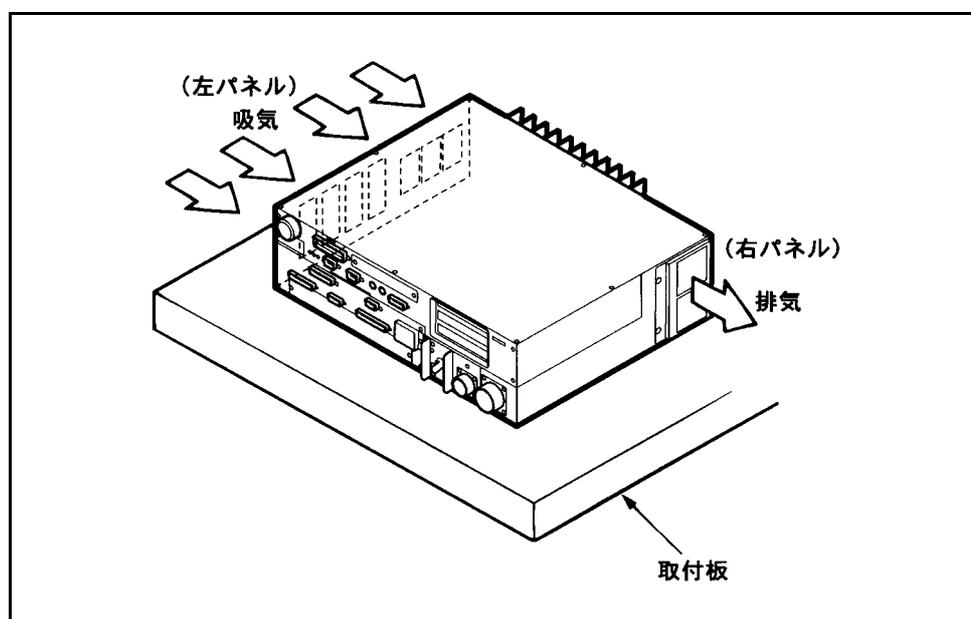
### 1.3.2 ロボットコントローラの設置

ロボットコントローラの設置方法には、自立据え置き型と壁掛け型の2つの方法があります。

#### [ 1 ] 自立据え置き型設置

下図に示すように、ロボットコントローラを設置します。

 注意: ロボットコントローラのエア吸い込み口とエア吹き出し口の200mm以内には障害物を置かないでください。

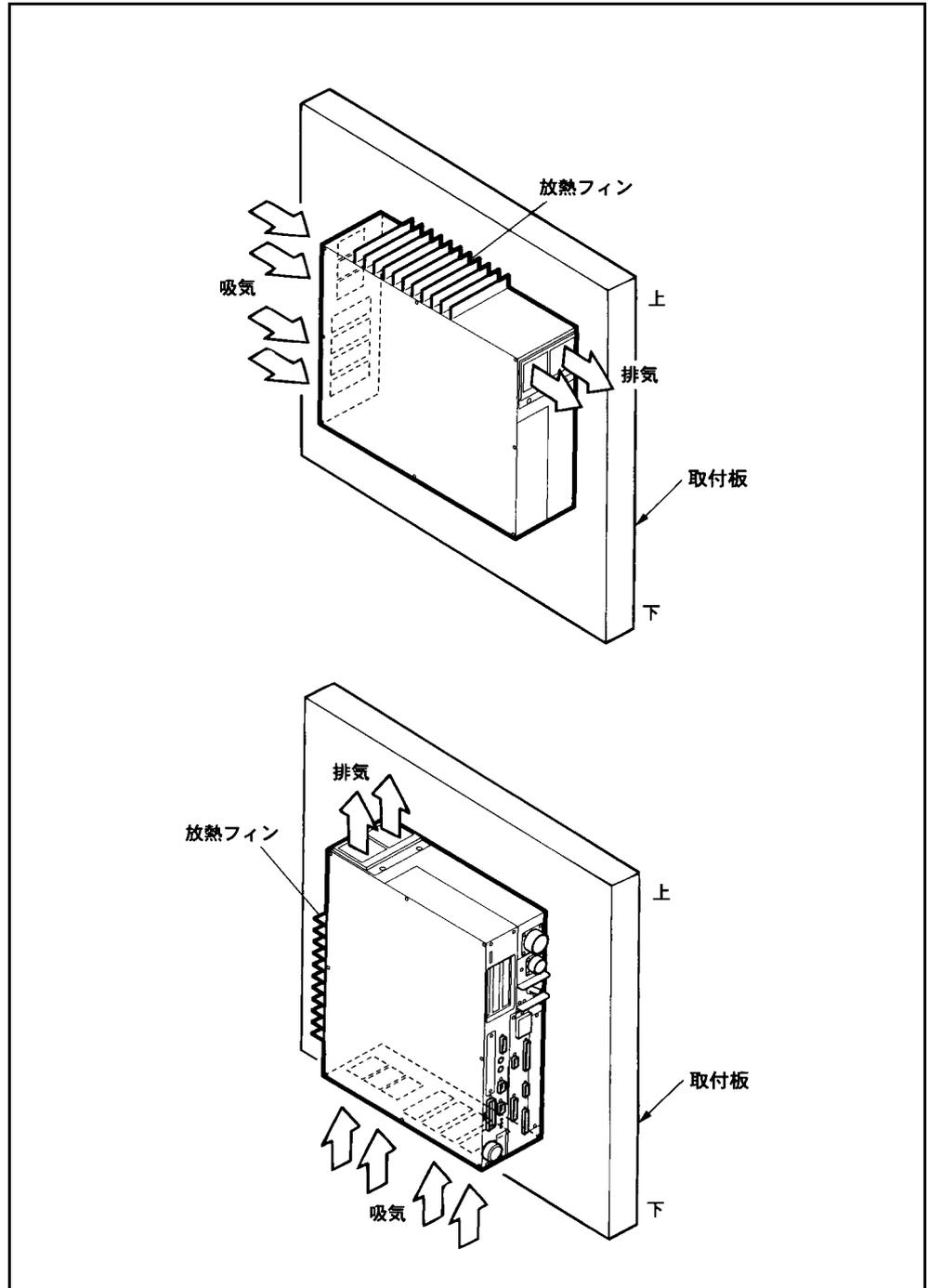


自立据え置き型設置

## [ 2 ] 壁掛け型設置

下図に示すように、ロボットコントローラを設置します。

 注意：ロボットコントローラのアエア吸い込み口とエア吹き出し口の200mm以内には障害物を置かないでください。



壁掛け型設置

## 1.4 ロボット本体の電気配線、エア配管方法

ロボット先端に取り付けるハンド・ツールの電気配線・エア配管は下記の例を参考に取り付けてください。

電気配線にはロボット用計装ケーブル（大京電子製）または同等の性能を有するものを使用してください。

### [ 1 ] ブレーキ・エアバランスシリンダの配管

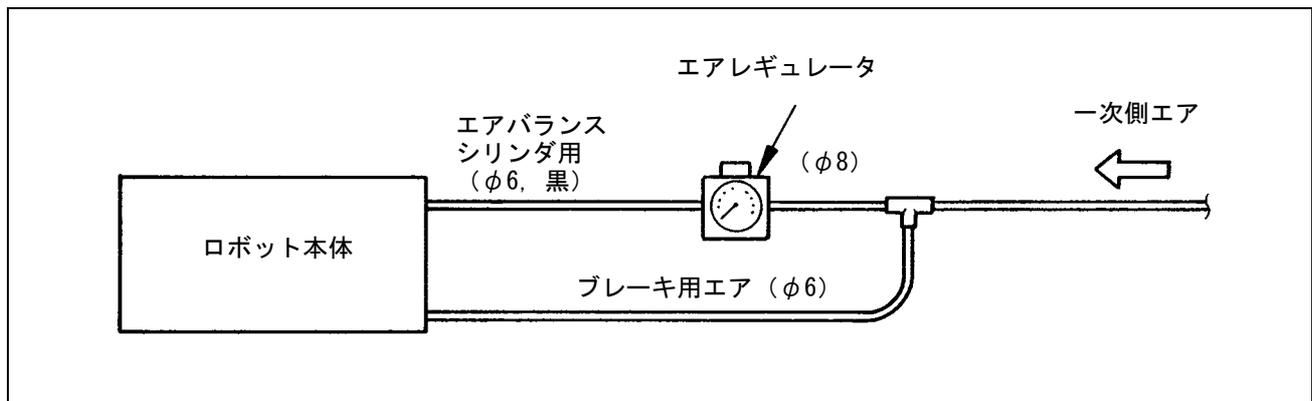
ブレーキおよびエアバランスシリンダの配管を、下図のように取り付けてください。一次側エア圧は下表の範囲にあるものを使用してください。

使用エア圧

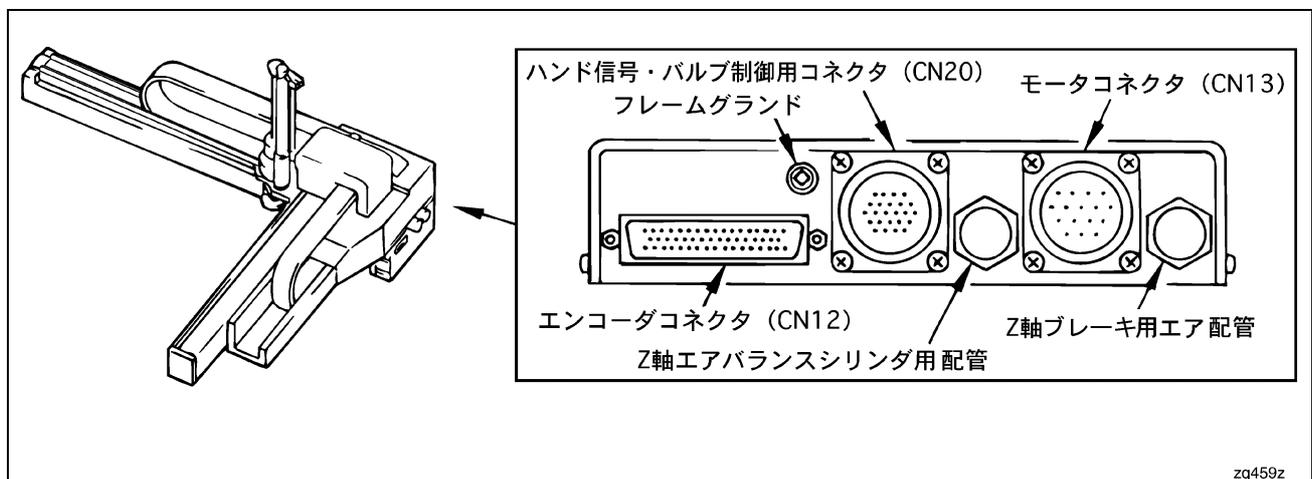
一次側エア圧力範囲	0.35~0.59 MPa
-----------	---------------

注意：ブレーキの配管は必ず、エアレギュレータの一次側から接続してください。

ロボット本体への配管箇所は、下図に示します。



ロボット本体への配管



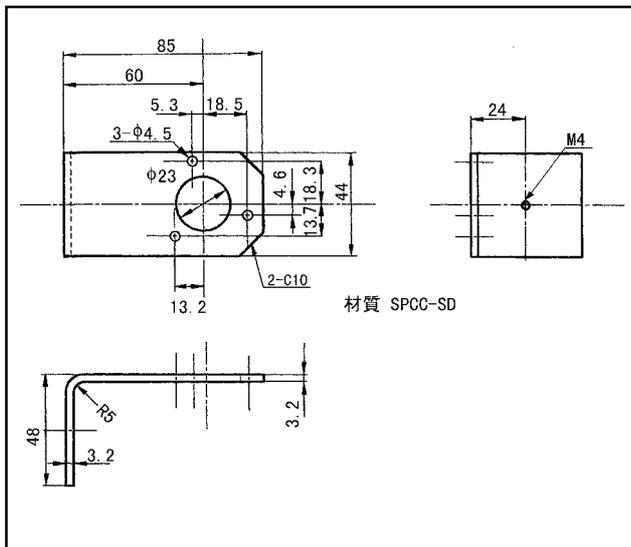
ロボットのエア配管箇所

zq459z

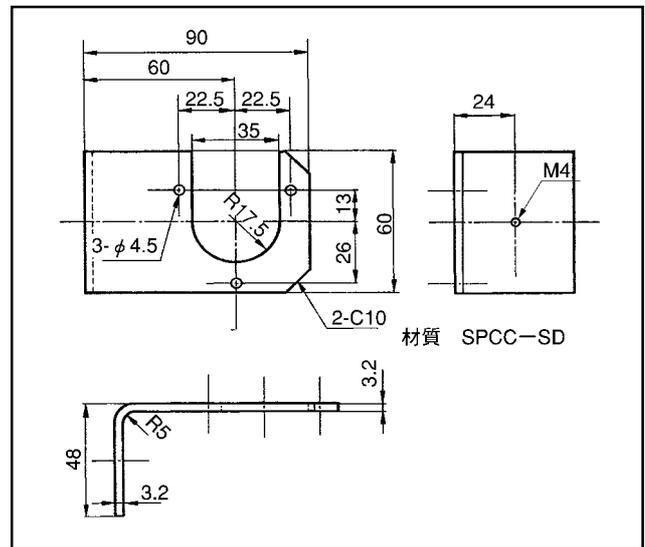
## [ 2 ] ロボット配線・配管用ステーの製作

配線・配管用のステーが必要です。

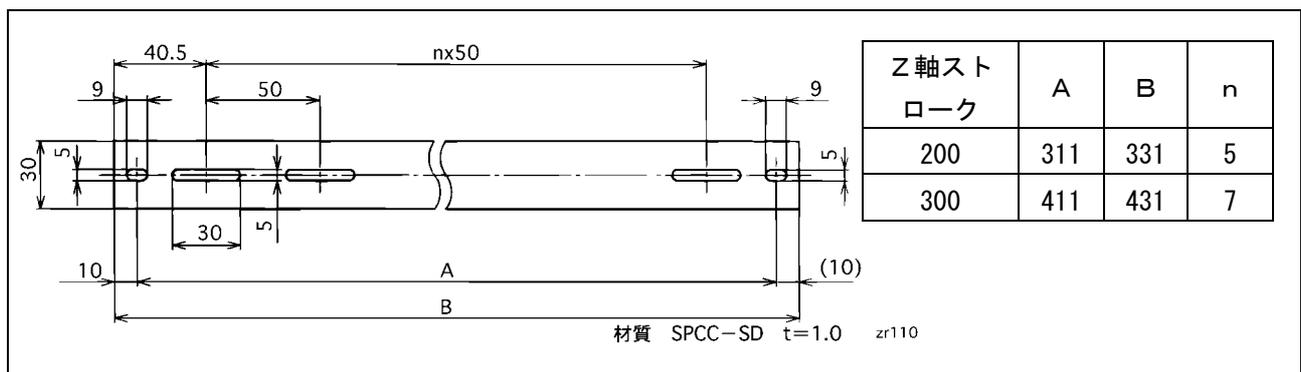
① ステーを製作してください。下図にステー製作例を示します。



ステー1



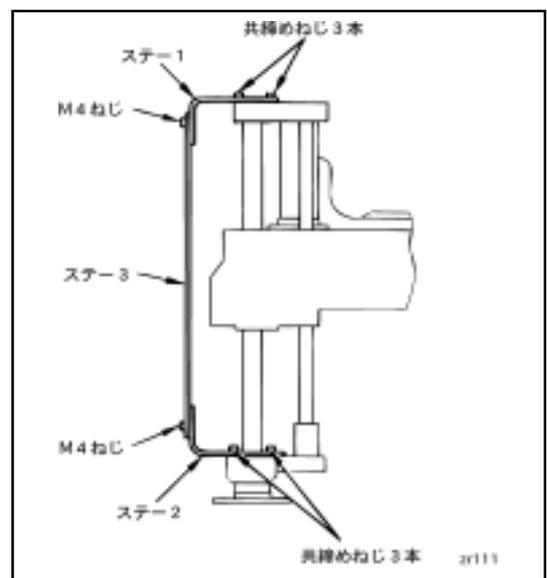
ステー2



ステー3

- ② ステー1とステー2を右図のように上下軸の上部、下部にあるベアリングカバー部と共締めします。
- ③ ステー3をM4ネジで、ステー1とステー2に取り付けます。
- ④ 配線・配管をしてください。

**注意：** 第4軸の可動範囲は540°ありますので余裕をもって配線・配管をしてください。



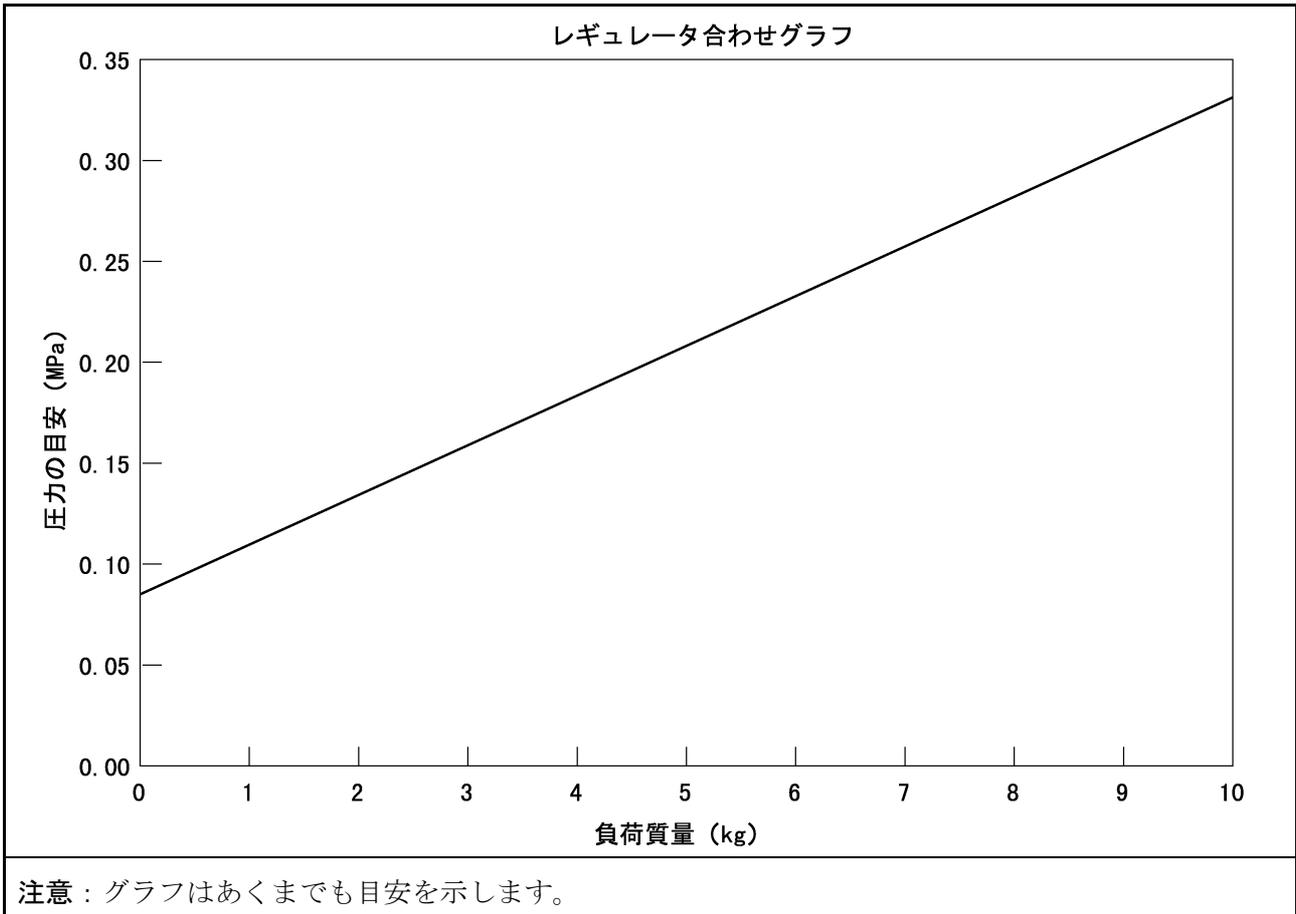
ステーの取り付け

### [ 3 ] エアバランスの調整

ロボットのハンドおよびハンドでチャックする負荷の重量とバランスするようにエアレギュレータでエアの圧力を調整してください。

調整の詳細は、下表および操作ガイド第5章「5.3 Z軸のエアバランス調整 [F2 アーム]—[F12 保守]—[F4 Z. BAL.]」を参照してください。

エア圧力の目安



## 1.5 ロボットハンド設計上の注意点

ロボットのハンドを設計するときは、以下の(1)～(3)の項目を満足するように設計してください。満足しない場合は、故障発生の原因になります。

**注意：**ロボットハンド設計上の注意点を守らないと、ロボット本体の各締結部にゆるみ、ガタが発生し、位置ズレを起こしたり、ロボットのメカ部品およびロボットコントローラが破損する危険があります。

### (1) ハンド質量

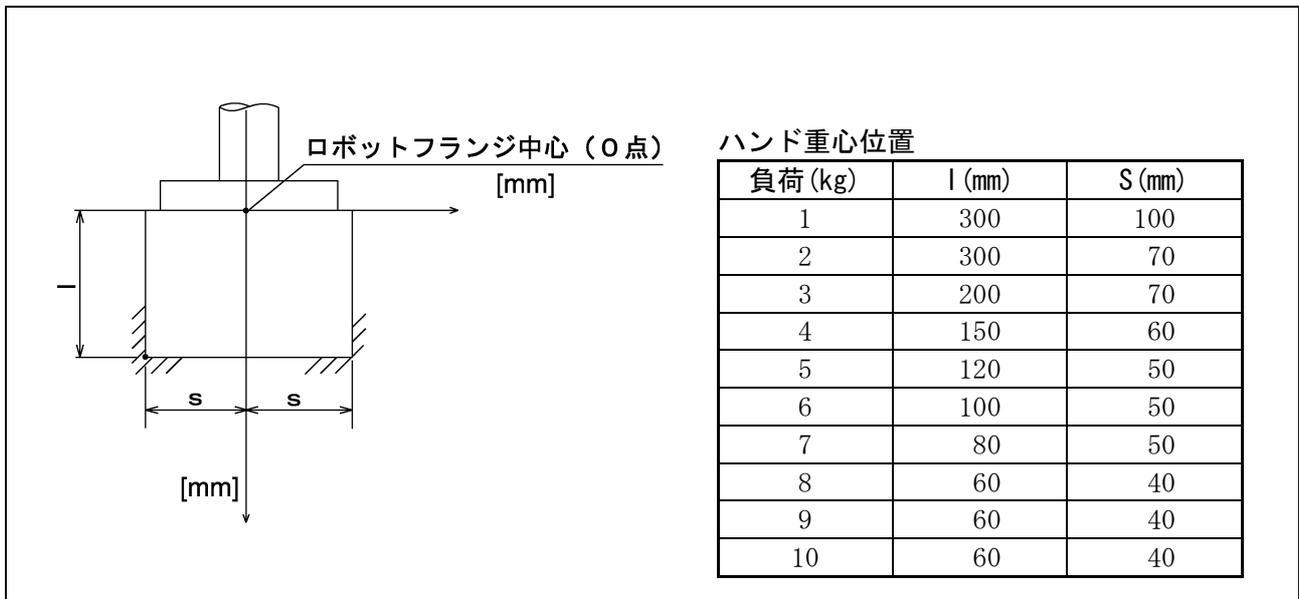
ハンド・ツール（ワークも含む）の総質量の最大値が、ロボットの最大可搬質量以下になるように設計してください。ハンド・ツールに使う配線、配管材なども総質量に含めることを忘れないでください。

$$\text{ハンド・ツール総質量最大値 (ワーク重量を含む)} \leq \text{最大可搬質量}$$

注：最大可搬質量とは、お客様が設定する先端負荷質量の値です。

### (2) ハンド重心位置

ハンド・ツール（ワークも含む）の重心位置が、下図に示す範囲になるように設計してください。



ハンド重心位置の許容範囲

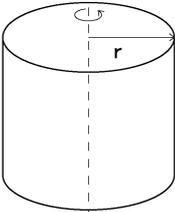
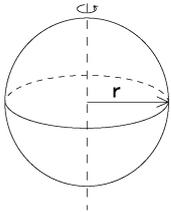
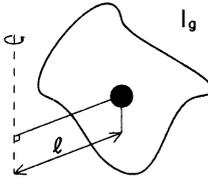
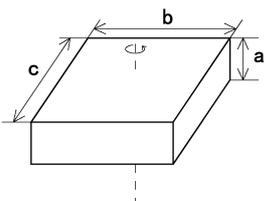
### (3) T軸回り慣性モーメント

ハンド・ツール（ワークも含む）のT軸回り慣性モーメントが、ロボットのT軸最大許容慣性モーメント以下になるように設計してください。

$$\text{ハンド・ツールT軸回り慣性モーメント(ワーク重量を含む)} \leq \text{最大許容慣性モーメント}$$

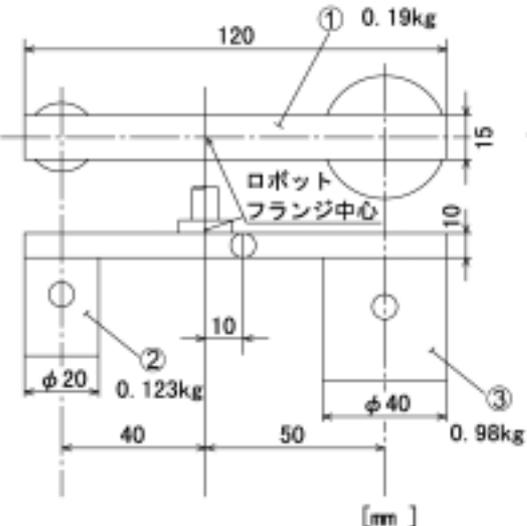
ハンド・ツールのT軸回り慣性モーメントを求めるときには、次ページの慣性モーメント計算式を参考にしてください。

慣性モーメント計算式

<p>1. 円柱 (1)</p>  <p>(回転軸=中心軸)</p> $I = \frac{mr^2}{2}$	<p>4. 球</p>  <p>(回転軸=中心軸)</p> $I = \frac{2mr^2}{5}$
<p>2. 円柱 (2)</p>  <p>(回転軸が重心を通る)</p> $I = \frac{m}{4} \left( r^2 + \frac{l^2}{3} \right)$	<p>5. 重心位置が回転軸上にない</p>  <p><math>I_G</math>; 重心回りの慣性モーメント [kgm<sup>2</sup>]</p> $I = I_G + m l^2$
<p>3. 直方体</p>  <p>(回転軸が重心を通る)</p> $I = \frac{m}{12} (b^2 + c^2)$	<p>〈単位〉</p> <p>I: 慣性モーメント [kgm<sup>2</sup>]  m: 質量 [kg]  r: 半径 [m]  a, b, c, l: 長さ [m]</p>

**計算例**

複雑な形状の慣性モーメントを計算する場合は、できる限り簡単な部分に分割して計算します。  
 下図に示すような3部品 (①、②、③) に分割して計算します。



①のT軸回り慣性モーメント $I_1$  (上表の3, 5より)

$$I_1 = \frac{0.19}{12} (0.12^2 + 0.015^2) + 0.19 \times 0.01^2 = 2.51 \times 10^{-4} \text{ [kgm}^2 \text{]}$$

②のT軸回り慣性モーメント $I_2$  (上表の1, 5より)

$$I_2 = \frac{0.123 \times 0.01^2}{2} + 0.123 \times 0.04^2 = 2.03 \times 10^{-4} \text{ [kgm}^2 \text{]}$$

③のT軸回り慣性モーメント $I_3$  (上表の1, 5より)

$$I_3 = \frac{0.98 \times 0.02^2}{2} + 0.98 \times 0.05^2 = 2.65 \times 10^{-3} \text{ [kgm}^2 \text{]}$$

ハンド全体のT軸回り慣性モーメント I

$$I = I_1 + I_2 + I_3 = 0.003 \text{ [kgm}^2 \text{]}$$

ハンドのT軸回り慣性モーメント計算例

## 第2章 ロボットの仕様変更とは

### 2.1 ロボットの仕様変更とは

ロボットを制御するソフトウェアは、機械的に動作可能な範囲を上限として、それ以内であれば任意に動作限界を決めることができます。この、ソフトウェア上の動作限界をソフトウェアリミットと呼び、標準の設定から変更することを、ロボットの仕様変更と呼びます。

他の装置との干渉防止やハンド用配線や配管などの巻き込みを防止するために、必要に応じて、適切な動作限界を設定してください。

## 2.2 ソフトウェアリミット

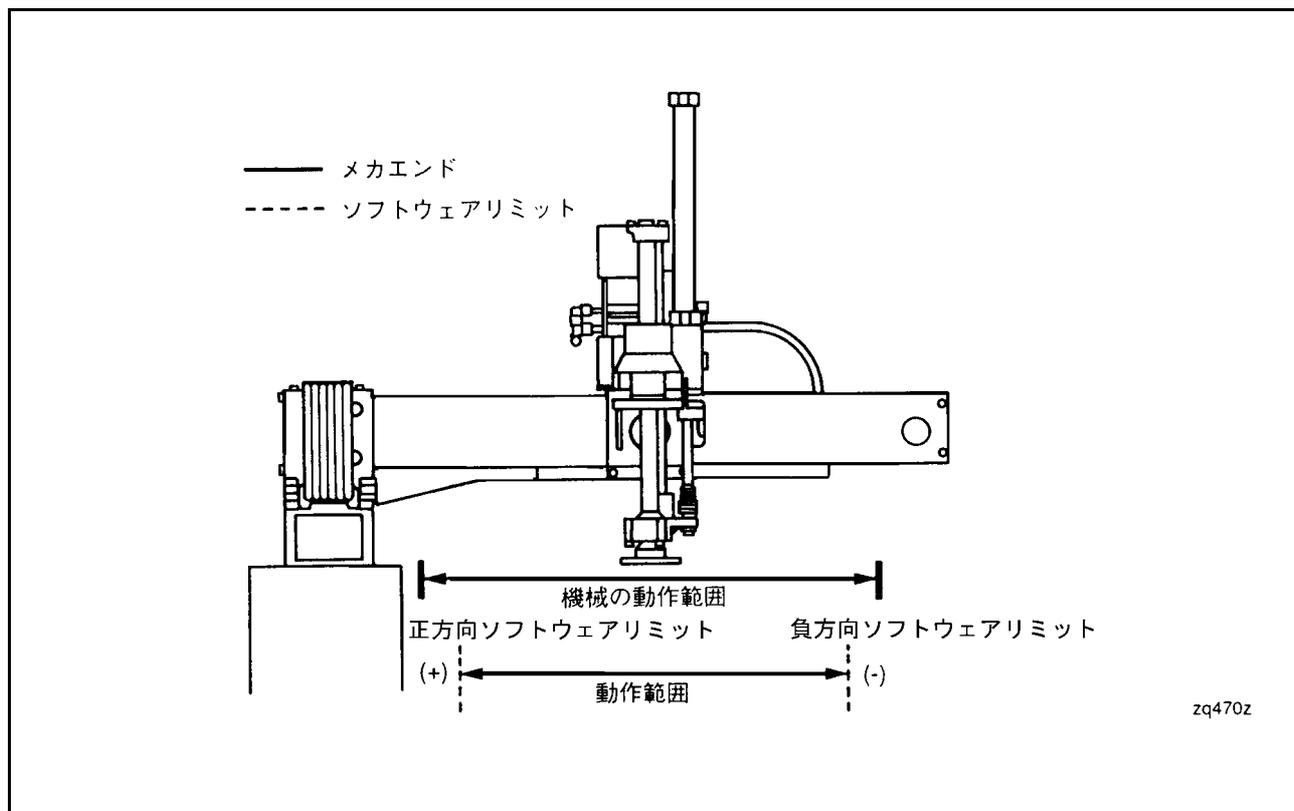
### 2.2.1 ソフトウェアリミットとは

ソフトウェアで決められたロボットの動作範囲の限界を、ソフトウェアリミットといいます。ロボットのCALが完了し、ソフトウェアリミットで設定された範囲の中にロボットが入ったあとに有効になります。

機械的な動作限界はメカエンドと呼び、メカストップ（機械的なストップ）によって設定されています。メカストップに衝突するのを防ぐために、出荷時には下図のように、メカエンドの少し手前にソフトウェアリミットを設定してあります。第6軸にはメカストップはありませんが、ソフトウェアリミットは設定してあります。

ロボットが手動動作や自動動作中にソフトウェアリミットに達すると、エラーメッセージ（エラーコード6070番台---1桁目は軸番号）を表示して、停止します。自動運転中の場合は、モータ電源も切れます。

すべての軸に、動作範囲の正方向側と負方向側にそれぞれ、ソフトウェアリミットを設定しています。正方向側のソフトウェアリミットを正方向ソフトウェアリミット、負方向側のソフトウェアリミットを負方向ソフトウェアリミットと呼びます。



ソフトウェアリミットとメカエンド

## 2.2.2 ソフトウェアリミットの出荷時の設定値

下表にソフトウェアリミットの出荷時の設定値を示します。

第1軸(X軸)のソフトウェアリミットの出荷時設定

(単位 : mm)

第1軸(X)ストローク	250	350	450	550
正方向	125	175	225	275
負方向	-125	-175	-225	-275

(単位 : mm)

第2軸(Y)ストローク	300	400	500	600	700	900
正方向	150	200	250	300	350	450
負方向	-150	-200	-250	-300	-350	-450

(単位 : mm)

第3軸(Z)ストローク	200
正方向	105
負方向	-95

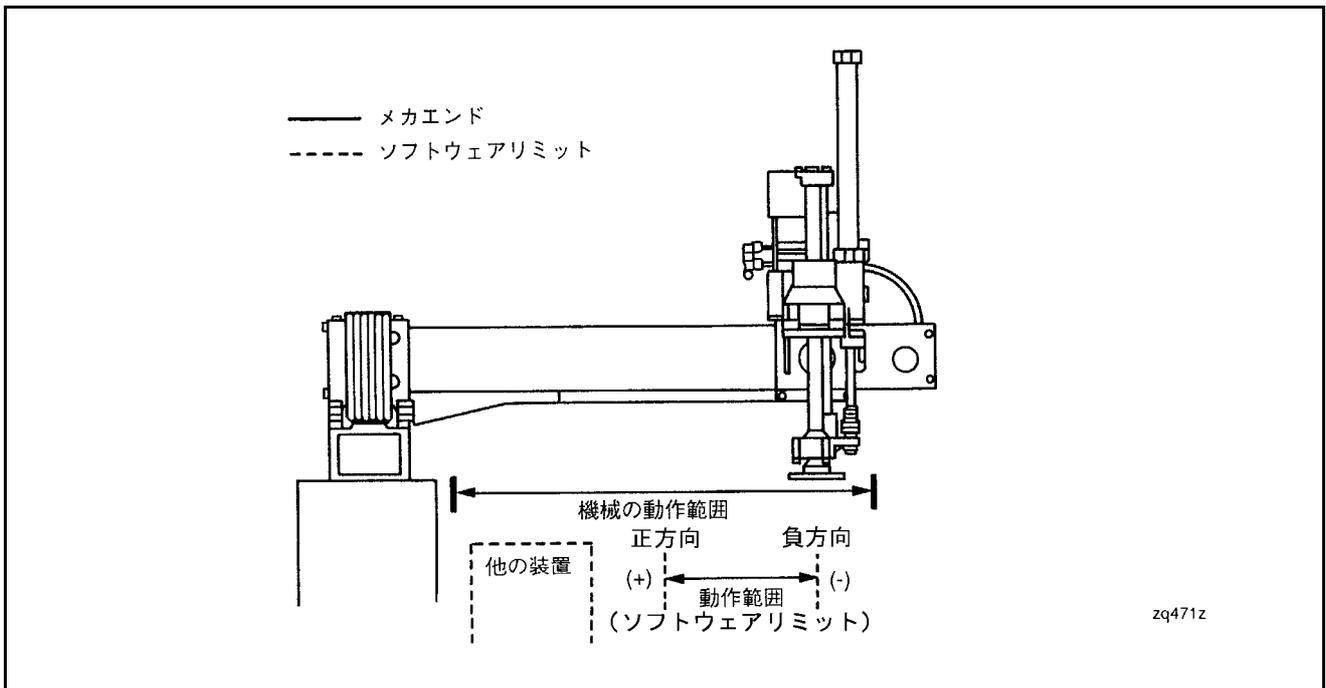
(単位 : 度)

第4軸(T)ストローク	540
正方向	270
負方向	-270

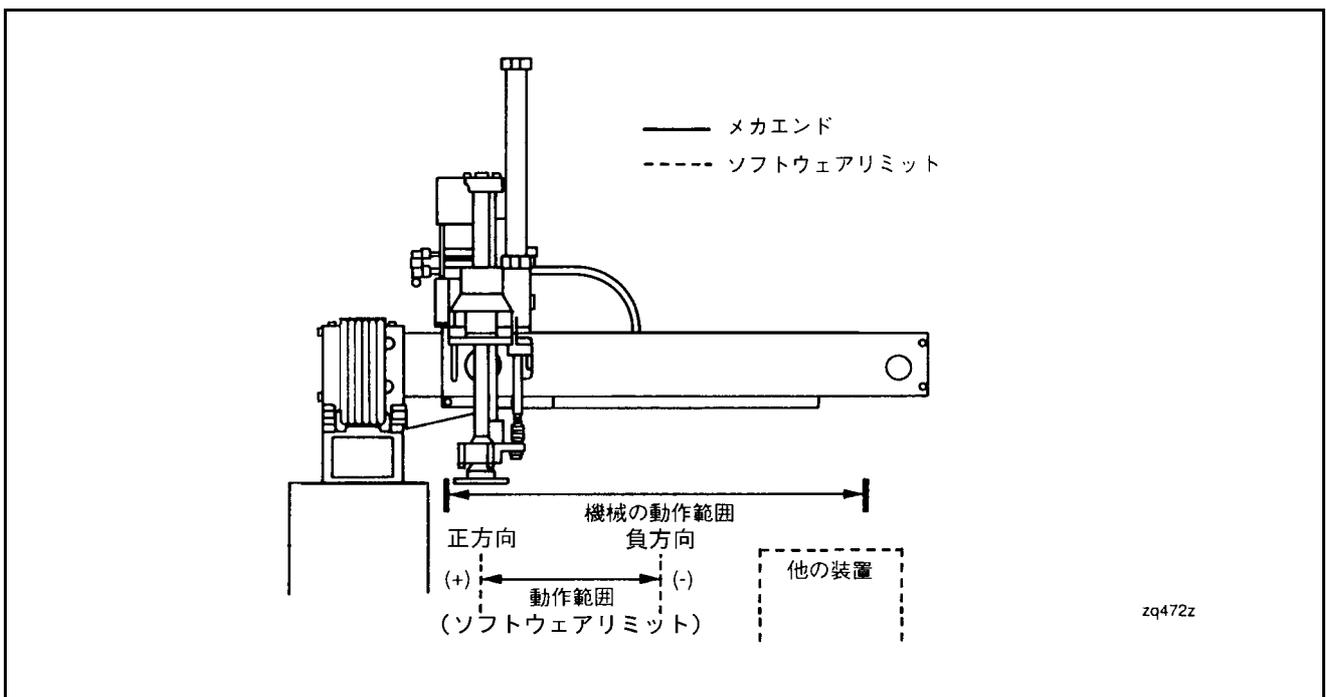
### 2.2.3 ソフトウェアリミットの変更例

ロボットが他の装置と干渉する場合、下図に示すように、ソフトウェアリミットを変更して、動作範囲を狭くしてください。

また、ハンド用エア配管、および配線がロボットの動作によって引っ張られる場合にも、下図のようにソフトウェアリミットを変更して、動作範囲を狭くしてください。



ソフトウェアリミットの変更例1



ソフトウェアリミットの変更例2

## 2.2.4 ソフトウェアリミットを変更するときの注意点

- (1) CALを完了するまでは、ソフトウェアリミットは無効です。
- (2) 実際の作業環境での、ロボットの動作する範囲を確認してください。また、単位を間違わないよう注意してください。  
誤って動作範囲を小さくし過ぎると、ロボットが動かなくなったように見えることがあります。

## 2.2.5 ソフトウェアリミットの変更手順

ソフトウェアリミットの変更の手順について説明します。

- ▶ **STEP 1** | ロボットコントローラの電源スイッチを「入り」にします。
- ▶ **STEP 2** | ティーチングペンダントのモード切替スイッチを [MANUAL] にします。
- ▶ **STEP 3** | ティーチングペンダントの基本画面で、[F2 アーム] を押します。

F2



F2

画面が変わり、[ロボット現在位置] 表示になります。

# STEP 4

SHIFT

F6

[F12 保守.] を押します。



F12

# STEP 5

F1

[F1 動作範囲.] を押します。

[動作範囲 (ソフトリミット)] ウィンドウが表示されます。



F5

## STEP 6

F5

数値を設定変更する項目を選択し、[F5 設定変更.] を押します。  
[ソフトリミット値変更] ウィンドウが表示されます。



## STEP 7

OK

[ソフトリミット値変更] ウィンドウの数字キーにタッチして、数値を設定し、[OK] を押します。

[動作範囲 (ソフトリミット)] ウィンドウの選択していた項目に、新しい値が設定されます。

数値を設定変更する項目が複数ある場合は、STEP 4と5を繰り返します。

## STEP 8

OK

[動作範囲 (ソフトリミット)] ウィンドウの [OK] を押します。

## STEP 9

ロボットコントローラの電源をOFF (切り) にします。

注意：変更された動作範囲の設定値 (ソフトウェアリミット) は、電源を再投入し、CALを完了してから有効になります。

## 2.3 CALSET

### 2.3.1 CALSET とは

コントローラが認識する位置情報と、ロボット本体の実際の位置の関係を較正することを、CALSETといいます。

モータを交換したりエンコーダのバックアップ電池が消耗しエンコーダ内の位置データが消滅したときには、CALSETが必要になります。

CALSETを行なうと、そのロボット本体の較正データがコントローラに記録されます。このデータをCALSETデータと呼びます。CALSETデータは、ロボット1台ごとに異なります。

本ロボットでは、出荷前にCALSETを行ない、添付の初期設定フロッピーディスクにそのデータを記録してあります。ロボットコントローラのメモリバックアップ電池が消耗して、CALSETデータが消失しても、フロッピーディスクのデータをロードし直せば、CALSETを行なう必要はありません。

## 2.3.2 CALSET の方法

第1軸から第4軸までは、手でロボットの各軸をメカエンドに押し当てて位置を記録します。

CALSETを行なうときには、ロボットの各軸をメカエンドに押し当てるための動作スペースが必要です。

- 注意 ① CALSET実行時はCALSETする軸をメカストップ付近へ移動し、ブレーキ解除してメカストップへ押し当ててください。
- ② CALSET完了後には、メカエンドに当たる前に、ソフトウェアリミットで停止することを、手動動作で確認してください。
- ③ 自動運転にあたっては、始めは低速で運転し、安全を十分に確かめながら徐々にスピードを上げるようにしてください。速度を小さい値から少しずつ増やしていけば、調整が容易です。
- ④ CALSET実施前に作成したプログラムの中には、CALSET後に位置が多少異なる場合があります。

### CALSET 位置とは

較正を行なう位置のことをいいます。各軸のメカエンドはそれぞれプラス方向、マイナス方向の2つがあります。本ロボットの出荷前に行なうCALSETは次ページ図に示すメカエンドをCALSET位置としています。

ロボットの種類		XYC-4D型ロボット	
位置	X軸 (1軸)	プラス方向直動端	
	Y軸 (2軸)	L仕様: マイナス方向直動端 R仕様: プラス方向直動端	
	Z軸 (3軸)	上昇端 (プラス方向)	
	T軸 (4軸)	プラス方向 (上から見て反時計方向) 回転端	
L仕様 (XYC-40***D-L)			
R仕様 (XYC-40***D-R)			

ロボット出荷時のCALSET位置

## 2.3.3 CALSET の操作方法

### [ 1 ] 単軸 CALSET の操作方法

指定した軸のみをCALSETすることを、単軸CALSETといいます。

モータ交換などのメンテナンスにより、その軸だけをCALSETしたいときや、ロボット周辺の設備とロボットが干渉するため、全軸を一度にCALSET位置（メカストップ位置）まで持っていけないときなどに行ないます。

以下に、単軸CALSETの操作手順を説明します。Z軸（3軸）以外はブレーキの解除は必要ありません。

#### ▶ STEP 1

MOTOR

CALSETを行う軸をメカストップまで動かします。

#### ▶ STEP 2

F2

ティーチングペンダントの[F2 アーム]を押します。

#### ▶ STEP 3

SHIFT

F6

[F12 保守.]を押します。



[保守機能（アーム）]ウィンドウが表示されます。

## STEP 4

F3

[F3 ブレーキ.]を押します。



[ブレーキ解除設定]ウィンドウが表示されます。

## STEP 5

「Z軸ブレーキ解除」を選択します。



## STEP 6

ブレーキ解除によって、アームが落下しても危険がないことを確認します。

# STEP 7

OK

[OK]を押します。  
システムメッセージ「ブレーキ設定を変更しますか？」が表示されます。



# STEP 8

OK

[OK]を押します。  
システムメッセージ「ブレーキを解除しました。アームの落下に注意してください。」が表示されます。



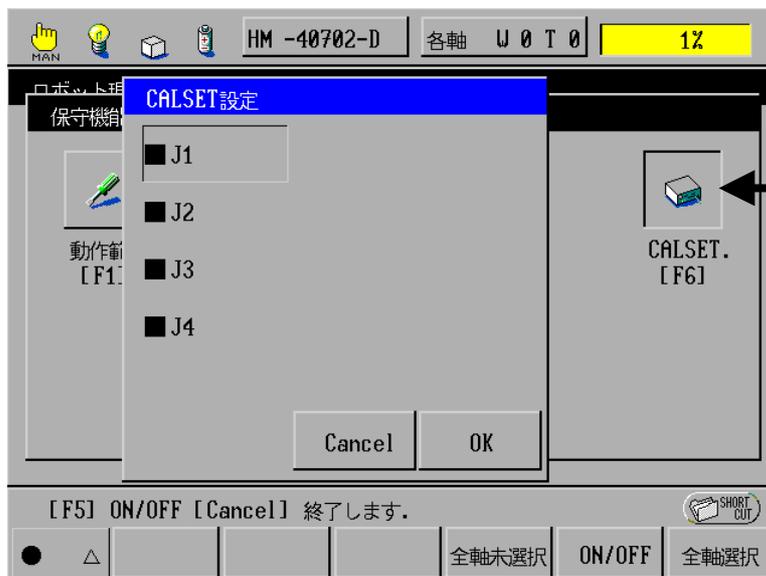
# STEP 9

CALSETを行なう軸を手で押して、メカストップに押し付けます。

## STEP 10

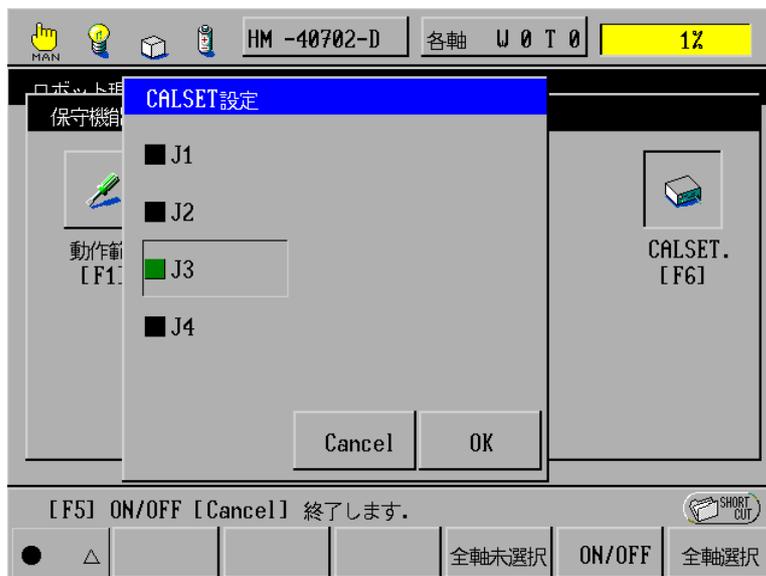
F6

[F6 CALSET.]を押します。  
[CALSET 設定]ウィンドウが表示されます。



## STEP 11

CALSETを行なう軸の軸番号にタッチして、[CALSET設定]をON（緑色表示）にします。CALSETをしない軸は、OFF（黒色表示）にします。

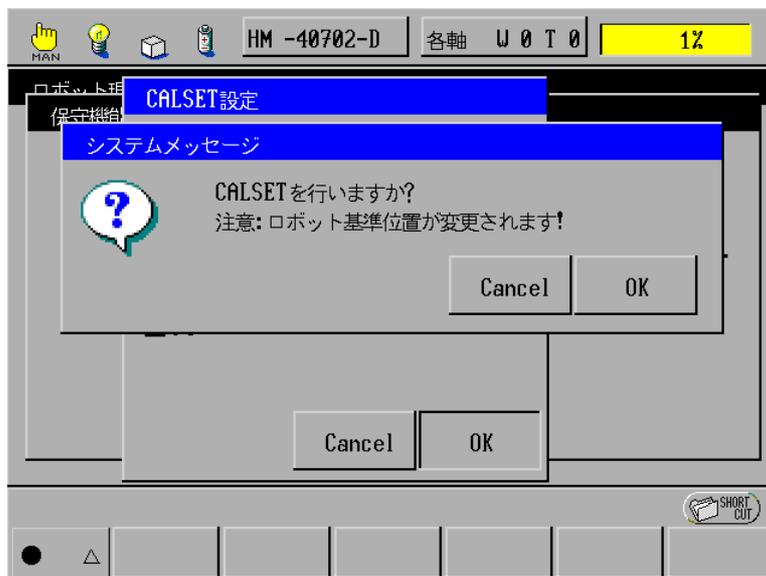


## ▶ STEP 12

OK

[OK]を押します。

システムメッセージ「CALSETを行いますか？注意：ロボット基準位置が変更されます！」が表示されます。



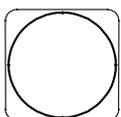
## ▶ STEP 13

OK

[OK]を押します。

システムメッセージ「CALSET成功しました。」が表示されます。

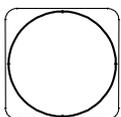
## ▶ STEP 14



[ロボット停止]ボタンを押します。

ロボットのブレーキが「入り」の状態になります。

## ▶ STEP 15



[ロボット停止]ボタンを回し、ロボット停止を解除します。

## ▶ STEP 16

MOTOR

[MOTOR] を押し、モーター電源を入りにします。

注意：モーター電源を入れた直後に“モーターロック過負荷”エラーが発生することがあります。この場合はモーター電源を何度か入れ直して頂くか、ブレーキを解除し、メカエンドの反対側へ少し移動させてから再度モーター電源を入れてください。

## ▶ STEP 17

ティーチングペンダントの手動操作で、CALSETした軸をメカエンドの反対側へ移動します。

## ▶ STEP 18

CAL実行します。これで指定した軸の単軸CALSETができました。

### [ 2 ] 全軸 CALSET の操作方法

全部の軸をCALSETすることを、全軸CALSETといいます。

全軸CALSETの操作手順は、単軸CALSETと同じです。STEP 11でCALSETを行なう軸を選ぶときに、全部の軸を選択します。詳しい手順は「[ 1 ] 単軸CALSETの操作方法」を参照してください。

## 2.4 最適可搬質量設定機能

ロボットアームの先端に取り付けるツールやワークの質量により、最適な速度や加速度は異なります。このため、ロボットの先端負荷や姿勢に応じてツールやワークの質量およびモードを設定します。

詳しくは、プログラミングマニュアル「4.7 「使用条件」における最適可搬質量設定機能」を参照してください。また、設定の手順については、操作ガイド「2.9 負荷質量、負荷重心、最適可搬質量に関する基本パラメータの設定 (TP/WC)」を参照してください。

先端負荷質量はツール及びワークの総質量で、単位はgです。

# 第3章 保守点検

## 3.1 保守点検作業の種類と目的

下表に示す保守点検作業を行なってください。

 注意：保守点検作業は、ロボットの可動範囲で行なう作業が多く、事故の危険性も高いため「労働安全衛生法第59条 および関連省令等」に定める産業用ロボットの「特別教育」を受講された作業者が実施してください。  
保守点検作業を行なう場合は、「安全にご使用いただくために」の「3 作業上の注意」、「4 日常点検・定期点検の実施」と本章を必ず読んでください。

保守点検作業の種類と目的

No	種類	目的
1	日常点検	ロボットを安全にご使用いただくために、 <b>毎日作業開始前</b> に行なっていただく <b>点検作業</b> です。 (3.2項参照)
2	3ヶ月点検	ロボットおよびコントローラの回転・摺動部の摩耗が、焼き付き・破損などの重故障につながることを防ぐために、 <b>3ヶ月毎</b> に行なっていただく <b>点検整備作業</b> です。 (3.3項参照)
3	2年点検	コントローラ内のメモリに記憶されているロボット固有のデータ（プログラム・パラメータ等）およびロボット本体内の電子式アブソリュートエンコーダに記憶されている位置データを消滅させないために、 <b>2年毎</b> に行なっていただく <b>電池交換作業</b> です。 (3.4項参照)

## 3.2 日常点検

### 3.2.1 日常点検整備の実施

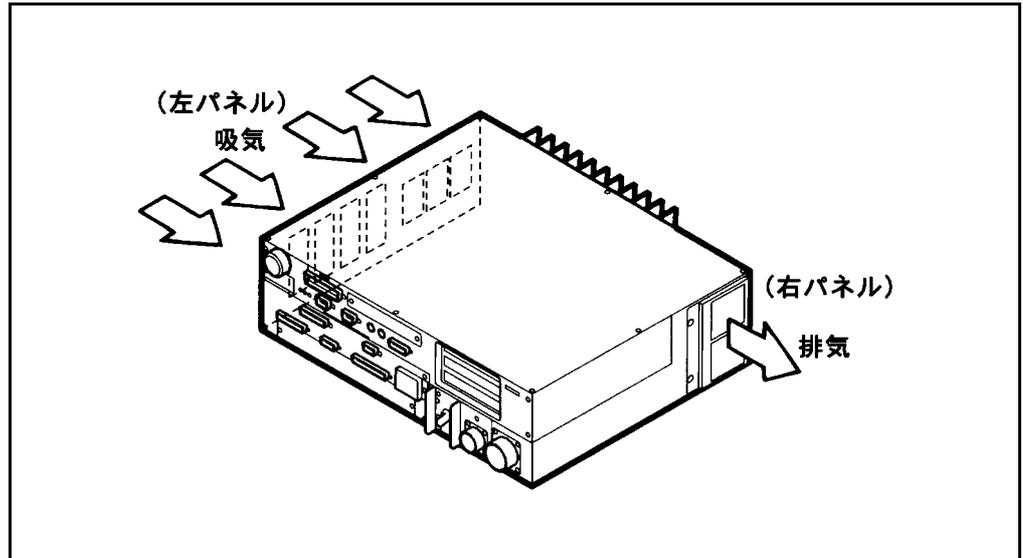
下表に従って、毎日作業開始前に実施してください。

日常点検整備表

No.	点検箇所または作動	コントローラ電源の状態	点検方法	判定基準	不具合時の処置方法 (注意①)
1	コネクタ部分（コントローラCN1～CN12）、およびその相手先	OFF	目視	緩み・抜け・汚れのないこと	正規に差し込み、および清掃の実施
2	ケーブル部分（コントローラCN1～CN12）、およびロボット外部ケーブル	OFF	目視	傷・むしれのないこと	修理・交換
3	ティーチングペンダント液晶表示	ON	目視	表示すること	修理・交換
4	コントローラパイロットランプ	ON	目視	点灯すること	修理・交換
5	コントローラ用冷却ファン	ON	目視 (注意②)	正常に回転していること	修理・交換
6	キャリブレーション作動	ON	目視	ERROR発生・異音のないこと	修理・交換
7	オペレーティングパネル、ティーチングペンダントまたはミニペンダントのロボット停止ボタン	ON	ロボット停止ボタンを押す	非常停止すること	修理・交換
8	安全扉	ON	安全扉のスイッチおよびスイッチへの配線の扉を開ける	非常停止すること	点検・修理

注意 ① 不具合時の処置方法欄の修理・交換については、一部専門的作業が伴う内容もありますので、弊社ロボットサービス部門にご連絡ください。

② 冷却用ファンの正常動作は次ページに示すとおりです。



冷却用ファンの正常動作

### 3.3 3ヶ月点検

#### 3.3.1 3ヶ月点検とグリスの補給

下表に従って実施してください。

3ヶ月点検整備表

No.	点検箇所または作動	コントローラ電源の状態	点検方法	判定基準	不具合時の処置方法										
1	ロボットベース 取り付けボルト	OFF	トルクレンチ で締め付けトルクを測定	緩みのないこと 規定トルク：14.7±2 N・m	規定トルクで締め付ける										
2	ロボット各軸 モータ取り付け ボルト	OFF	トルクレンチ で締め付けトルクを測定	緩みのないこと <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <thead> <tr> <th>モータ</th> <th>規定トルク</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1軸</td> <td>4±0.8 N・m</td> </tr> <tr> <td>2軸</td> <td>4±0.8 N・m</td> </tr> <tr> <td>3軸</td> <td>2±0.4 N・m</td> </tr> <tr> <td>4軸</td> <td>2±0.4 N・m</td> </tr> </tbody> </table>	モータ	規定トルク	1軸	4±0.8 N・m	2軸	4±0.8 N・m	3軸	2±0.4 N・m	4軸	2±0.4 N・m	規定トルクで締め付ける
モータ	規定トルク														
1軸	4±0.8 N・m														
2軸	4±0.8 N・m														
3軸	2±0.4 N・m														
4軸	2±0.4 N・m														
3	ロボットの回転・ 摺動部	OFF	グリスを補給 (3.3.3項「グリスの補給」参照)												
4	コントローラ冷却 ファンフィルタ	OFF	目視	汚れのないこと	清掃を実施  (3.3.2項「ロボット コントローラ冷却フ ァンフィルタの清掃」 参照)										

### 3.3.2 ロボットコントローラ冷却ファンフィルタの清掃

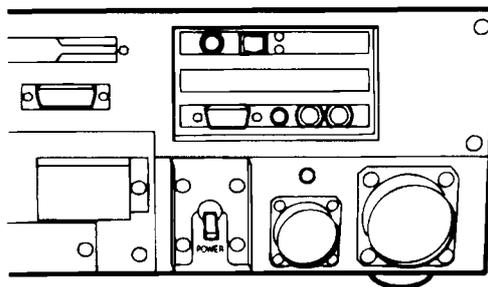
ロボットコントローラ冷却ファンフィルタは、吸い込み口用1個と吹き出し口用1個があります。

フィルタが目詰まりすると、ロボットコントローラ内部の冷却が不十分になり、内部の電子部品が熱によって故障するおそれがあります。

パワーモジュール異常が表示されたら、フィルタの目詰まりが原因の一つとして考えられます。フィルタを点検、清掃してください。フィルタの清掃は、以下に説明する手順に従って行ってください。

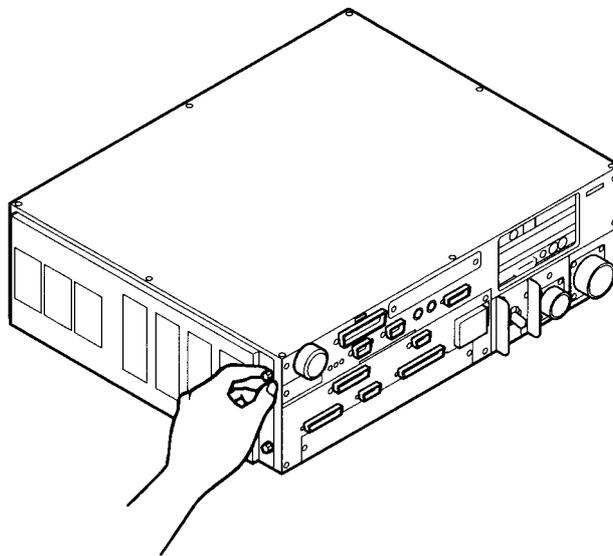
#### ▶ STEP 1

ロボットコントローラの電源を切りにします。



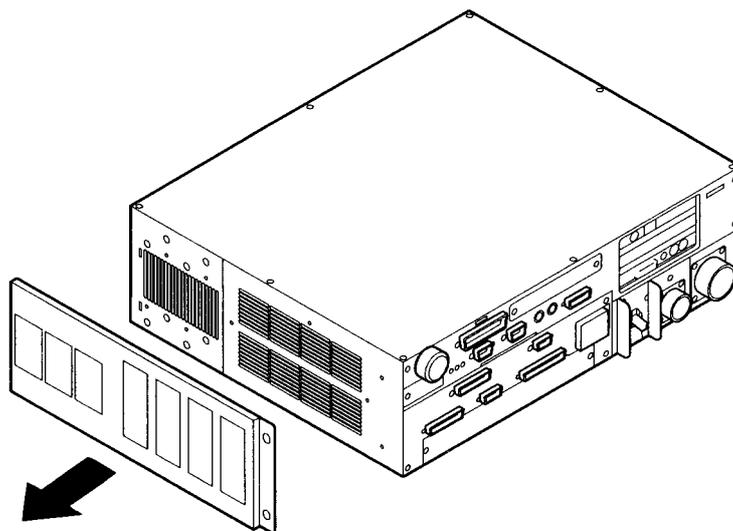
#### ▶ STEP 2

吸い込み口フィルタの取付ビスを手ではずします。



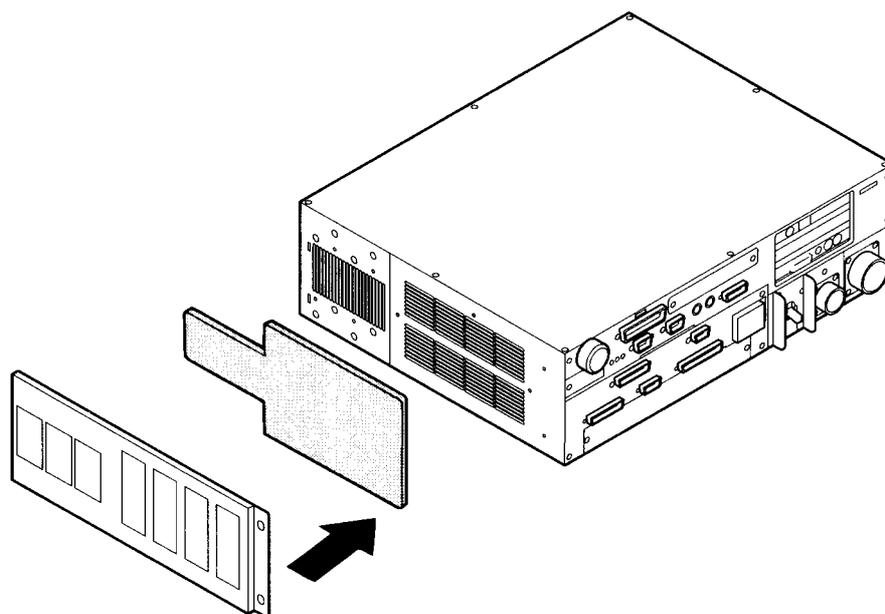
▶ STEP 3

吸い込み口フィルタの取付枠を取りはずします。



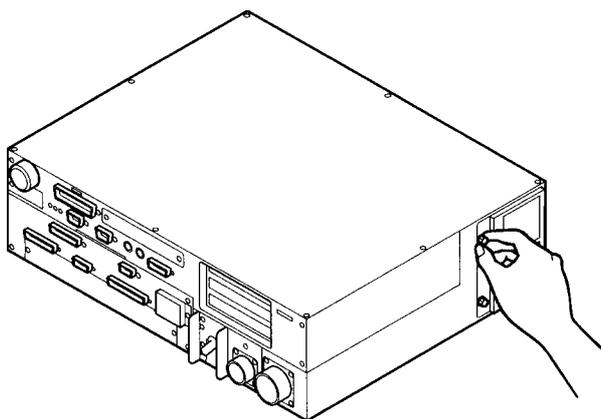
▶ STEP 4

フィルタ材を取付枠から取りはずします。



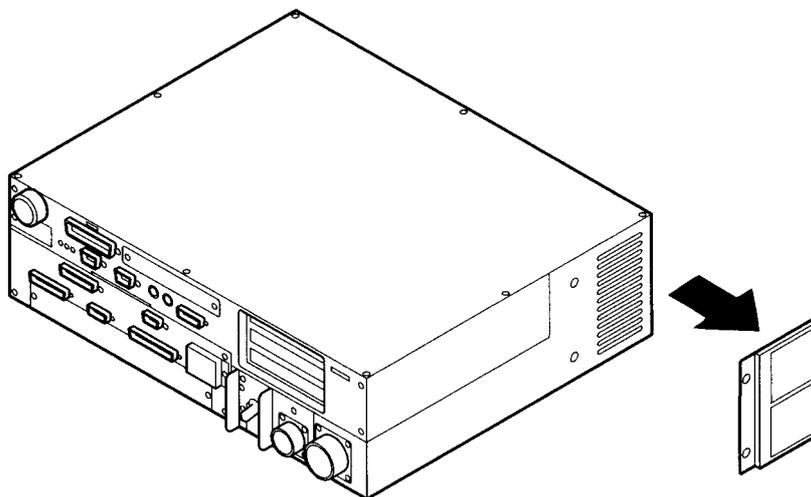
▶ STEP 5

吹き出し口フィルタの取付ビスを手ではずします。



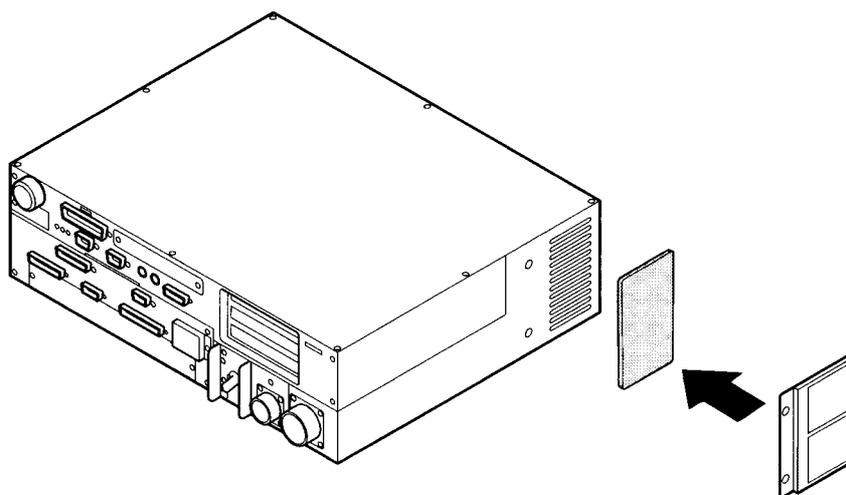
▶ STEP 6

吹き出し口フィルタの取付枠を取りはずします。



▶ STEP 7

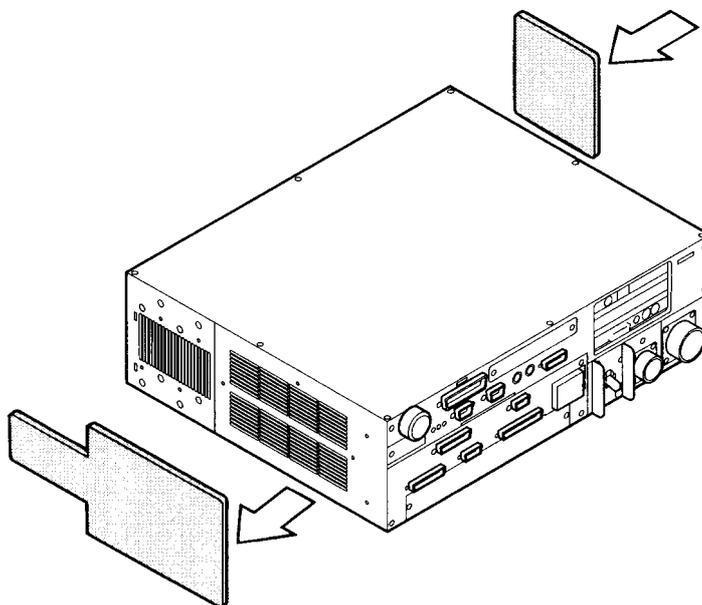
フィルタ材を取付枠から取りはずします。



## ▶ STEP 8

フィルタ材をエアブローで清掃します。

- 注意 ① 通常の空気の流れとは逆方向からエアブローしてください。  
② 清掃用エアは、除湿、除油された清潔なものを使用してください。



汚れがひどいときには、フィルタを水またはぬるま湯（40℃以下）で水洗いします。中性洗剤を使うと、一層きれいになります。

- 注意 ① 洗浄後は、フィルタを十分に乾燥させてから、組み付けてください。  
② エアブロー、水洗いでもきれいにならない場合は、フィルタを新品に交換してください。

## ▶ STEP 9

フィルタを元どおりに組み付けます。  
手順はSTEP 1～7の逆の順番で行ないます。

### 3.3.3 グリスの補給

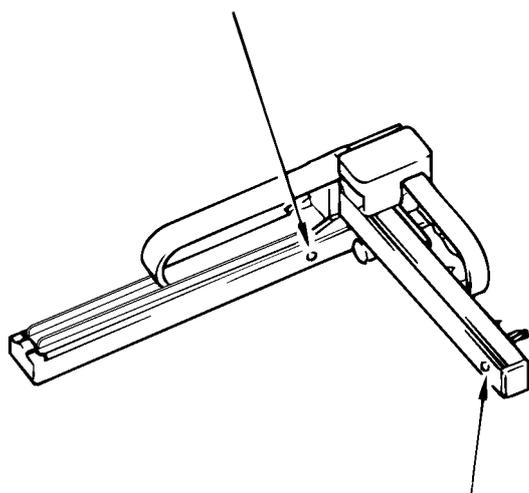
ロボットの回転・摺動部へのグリスの補給を下表に従って実施してください。

注： 給油ニップルから推奨のグリスガン（「3.5 保守用消耗品と推奨工具」参照）で補給する場合、1プッシュで1.4cc吐出します。

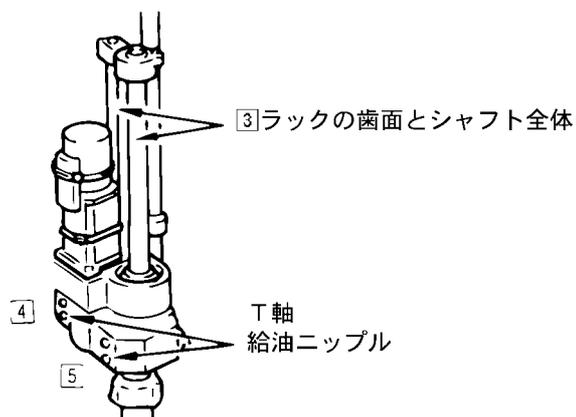
#### グリスの補給

No.	グリス補給箇所	グリス名	補給量
1	Y軸給油ニップル	エピノックAP 1	2～3cc
2	X軸給油ニップル	↑	2～3cc
3	Z軸ラック歯面とシャフト全体	↑	2～3cc
4	T軸給油ニップル	↑	1.5cc
5	T軸給油ニップル	↑	3cc

① ゴムキャップを取りシャトルに取付いているニップルに給油



② ゴムキャップを取りシャトルに取付いているニップルに給油



注： X、Y軸を手で動かし穴からニップルが見えることを確認し給油ください。

## 3.4 2年点検

### 3.4.1 電池交換

2年点検整備では、下表に示す2種類のバックアップ電池の交換を行ないます。

バックアップ電池の種類

	電池の種類	役 目	装着場所	参照
1	エンコーダバックアップ電池	サーボモータのエンコーダ位置データの記憶をバックアップ	ロボット本体内	3.4.2項
2	メモリバックアップ電池	プログラム、パラメータ、CALデータの記憶をバックアップ	ロボットコントローラ内	3.4.3項

サーボモータに内蔵しているエンコーダの位置データは、エンコーダ内部のメモリに記憶しています。

また、プログラム、パラメータ、CALデータ等はロボットコントローラ内部のメモリに記憶しています。ロボットコントローラの電源を切りの状態にしているあいだ、これらのデータはそれぞれのバックアップ電池によって記憶が維持されています。電池には寿命があり、定期的に交換する必要があります。

 注意：バックアップ電池の交換を怠ると、各メモリ内にある大切なロボットの固有データが消失してしまいます。

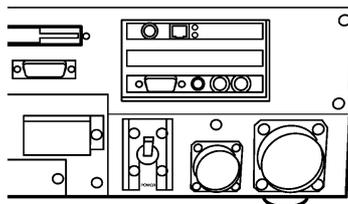
### 3.4.2 エンコーダバックアップ電池の交換

2年点検整備表のエンコーダのバックアップ電池の交換については、下記手順で実施してください。

#### ▶ STEP 1

コントローラの電源を入りにします。

⚠注意：モータ電源は絶対に入れないでください。



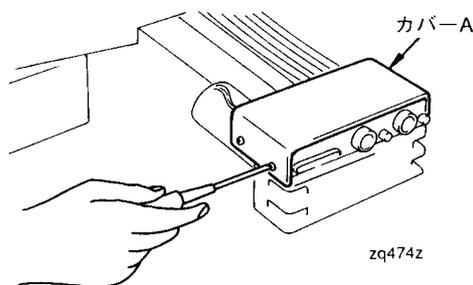
#### ▶ STEP 2

誤ってモータ電源を入れるのを防ぐため、コントローラのロボット停止ボタンを押してロックする。(TP、MPまたはOPのロボット停止ボタンでも可)

注：ロボット停止ボタンを時計方向に少しまわすとロックが解除されます。

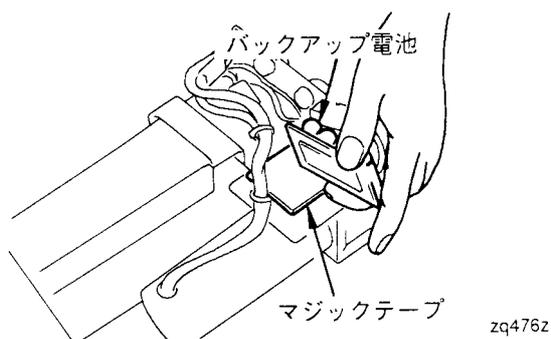
#### ▶ STEP 3

ロボット本体のカバーAを4本のスクリュをゆるめて取り外します。



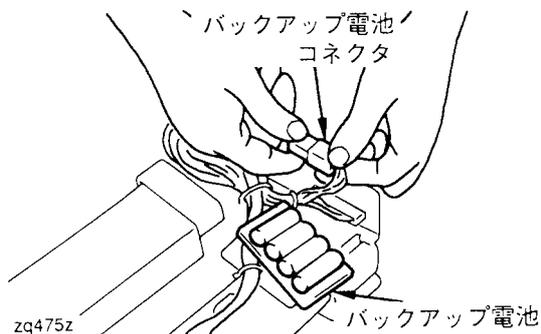
#### ▶ STEP 4

バックアップ電池用配線を固定しているインシュロックをカットし、マジックテープで固定されているバックアップ電池を取りはずします。



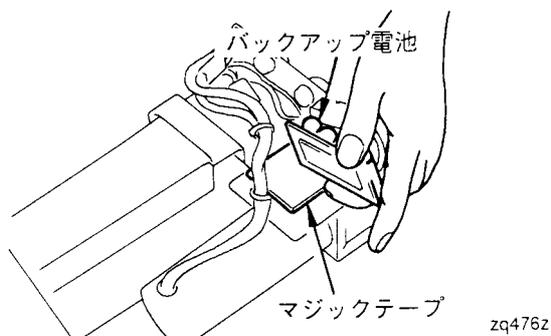
## STEP 5

バックアップ電池コネクタを取りはずし、新しいバックアップ電池と交換します。



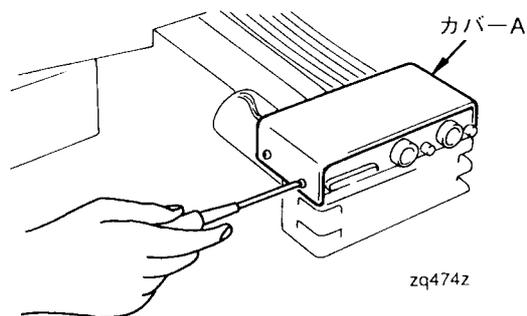
## STEP 6

バックアップ電池側と本体側のマジックテープを合わせて、バックアップ電池を本体に取り付けます。  
バックアップ電池用配線をインシュロックで固定します。



## STEP 7

カバーAをロボット本体に取り付けてください。  
締め付けトルク=0.8±0.2N・m



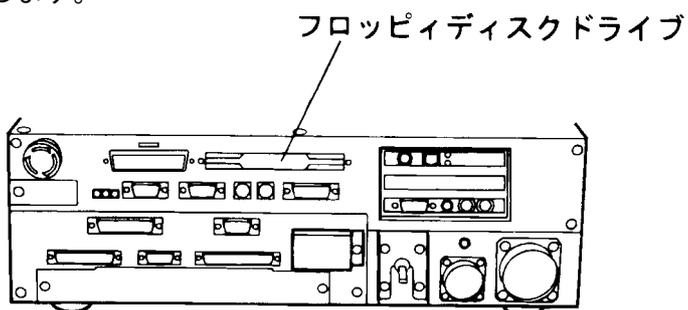
### 3.4.3 メモリバックアップ電池の交換

以下にフロッピーディスクを使用したメモリバックアップ電池の交換例を示します。

注意：メモリバックアップ電池の交換をする前に、不慮の事態に備えて、ロボットコントローラのメモリデータをフロッピーディスクへセーブ（書き込み）しておいてください。内蔵フロッピーディスクドライブは、オプション設定です。

#### ▶ STEP 1

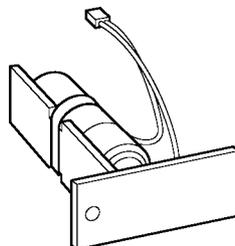
ロボットコントローラのメモリデータをフロッピーディスクへセーブ（書き込み）します。



セーブの方法は、操作ガイド 5.7 項「[フロッピーメニュー]」の表示、[F6 設定]—[F3 FD.]」を参照してください。

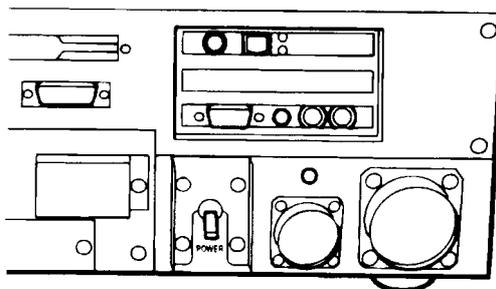
#### ▶ STEP 2

交換用の新しいメモリバックアップ電池を用意します。



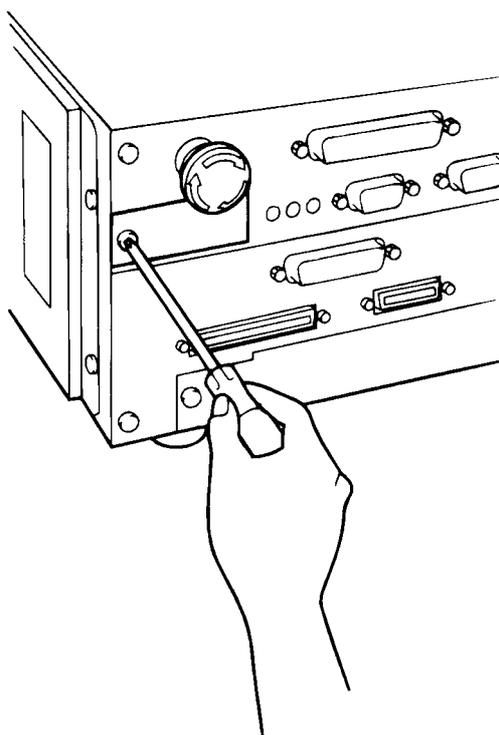
#### ▶ STEP 3

ロボットコントローラの電源を入りにし、1分以上経過してから、切りにします。



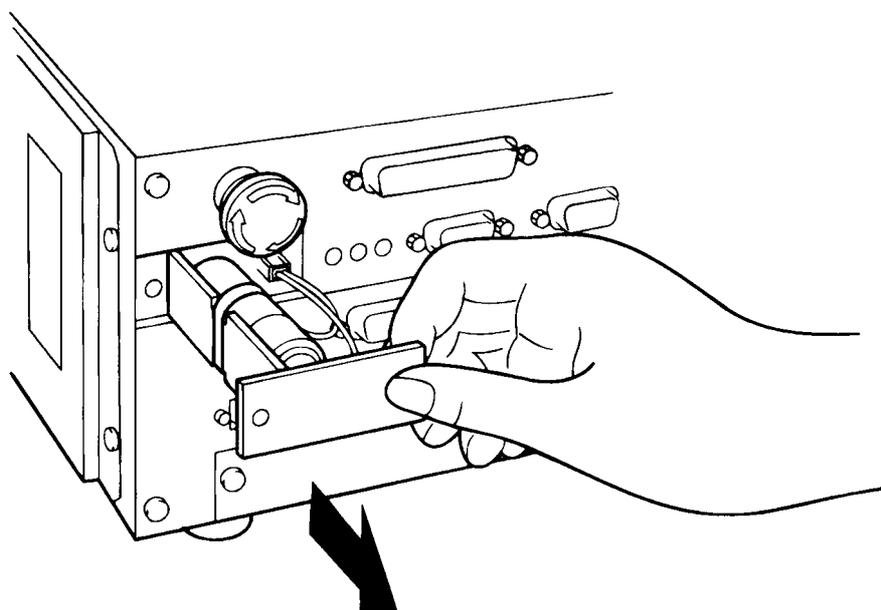
▶ STEP 4

メモリバックアップ電池ホルダの固定ビスをはずします。



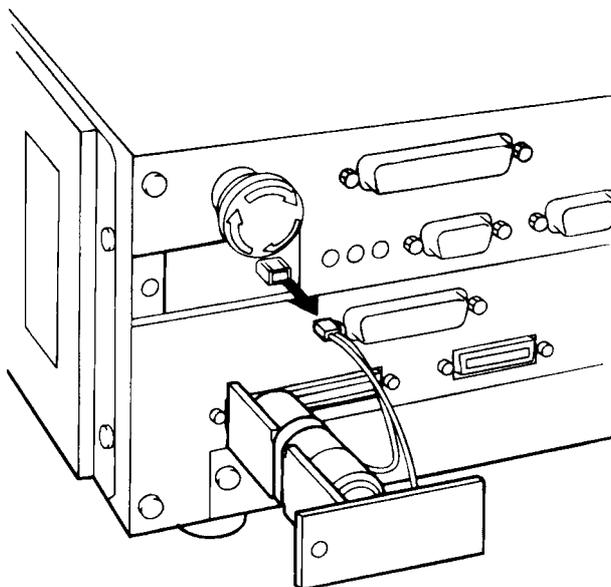
▶ STEP 5

メモリバックアップ電池ホルダを取り出します。



## ▶ STEP 6

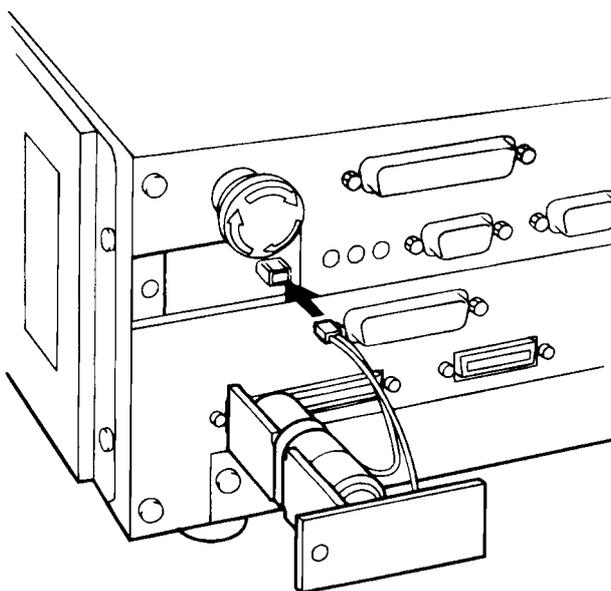
メモリバックアップ電池接続コネクタをはずします。



 注意 : STEP 6 と 7 の作業は 3 分以内に終わってください。3 分以上電池がはずれたままになっていると、メモリのデータは失われます。

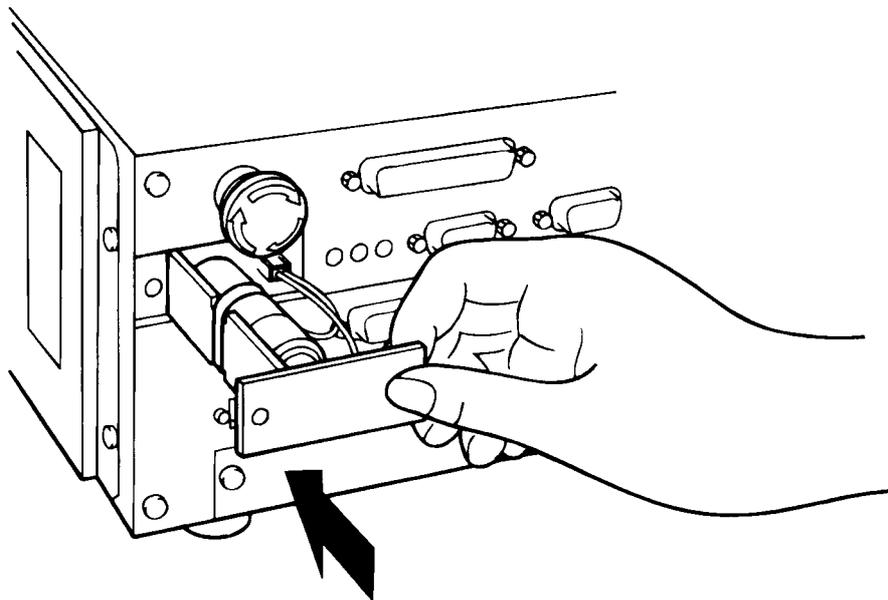
## ▶ STEP 7

STEP 2 で用意した、交換用の新しいメモリバックアップ電池のコネクタを、ロボットコントローラに接続します。



## ▶ STEP 8

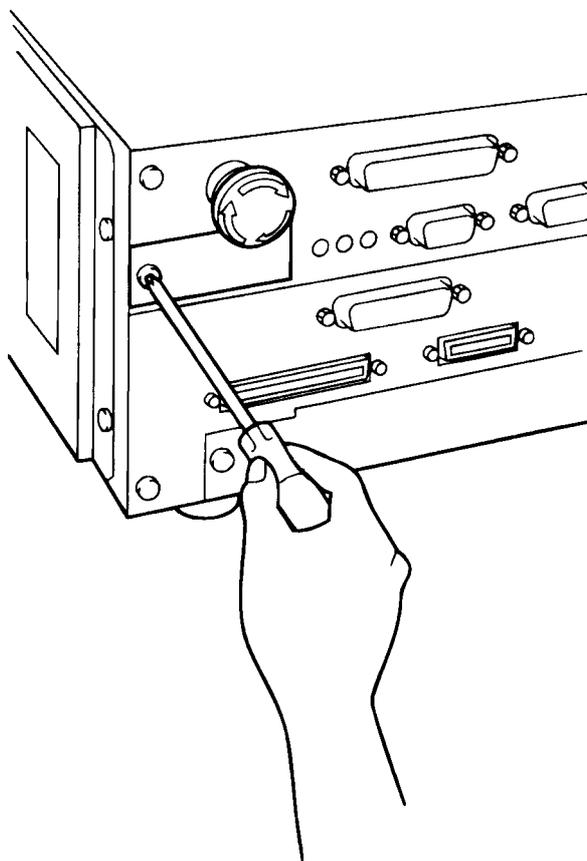
新しいメモリバックアップ電池ユニットを、ロボットコントローラ内におさめます。



 注意：電池のリード線が、蓋や内部部品の間隙に噛み込まないように注意してください。短絡が起きると思わぬ故障の原因になります。

## ▶ STEP 9

メモリバックアップ電池ホルダの固定ビスを、ドライバで固定します。



### 3.4.4 次回点検日の設定

電池交換が終了したら、ティーチングペンダントを使用し、以下に説明する手順に従って、次の点検日を設定してください。

注意 ① オペレーティングパネルではこの操作はできません。  
② ロボットコントローラ内部の日付が誤っている場合は正しく設定することができません。前もってロボットコントローラ内部の日付を正しく設定してください。

▶ **STEP 1** 基本画面で [F6 設定] を押します。  
[設定 (メイン)] ウィンドウが表示されます。

▶ **STEP 2** [F6 保守] を押します。  
[バッテリー 次回点検日] ウィンドウが表示されます。

▶ **STEP 3** [F4 バッテリー] を押します。  
ウィンドウの上部に現在の設定値が表示されます。  
注記： 日付入力エリアには、次回の点検日として自動的に現在日付の2年後の日付が表示されます。

▶ **STEP 4** [OK] を押します。

注意：点検日を設定しない場合は[Cancel]を押してください。

「バッテリー次回点検日を設定して良いですか？」のメッセージウィンドウが表示されます。

▶ **STEP 5** [OK] を押します。  
[設定 (メイン)] ウィンドウに戻ります。

### 3.5 保守用消耗品と推奨工具

デンソーロボットに使用している部品のうち、消耗品として定期的に交換が必要な部品と保守点検に必要な推奨工具を下表に示します。

#### 3.5.1 消耗品と必要工具・装置

消耗品一覧リスト

No	品名	品番	備考
1	グリス	410971-0040	2.5kg缶
2	グリス	410971-0050	16kg缶
3	フィルタ (左)	410041-0760	コントローラ冷却ファンフィルタ(吸気用)
4	フィルタ (60ファン用)	410041-1220	コントローラ冷却ファンフィルタ(排気用)
5	メモリバックアップユニット	410076-0090	コントローラ用メモリバックアップ電池 (板金付)
6	エンコーダバックアップ電池	410611-0020	
7	ヒューズ (1.3A)	410054-0230	コントローラI/O用ヒューズ LM13(1.3A)
8	ヒューズ (0.3A)	410054-0240	コントローラI/O用ヒューズ LM03(0.3A)
9	出力用IC (NPN)	410077-0010	コントローラ出力用IC (M54522P)
10	出力用IC (PNP)	410077-0020	コントローラ出力用IC (M54564P)

#### 3.5.2 推奨工具

推奨工具一覧リスト

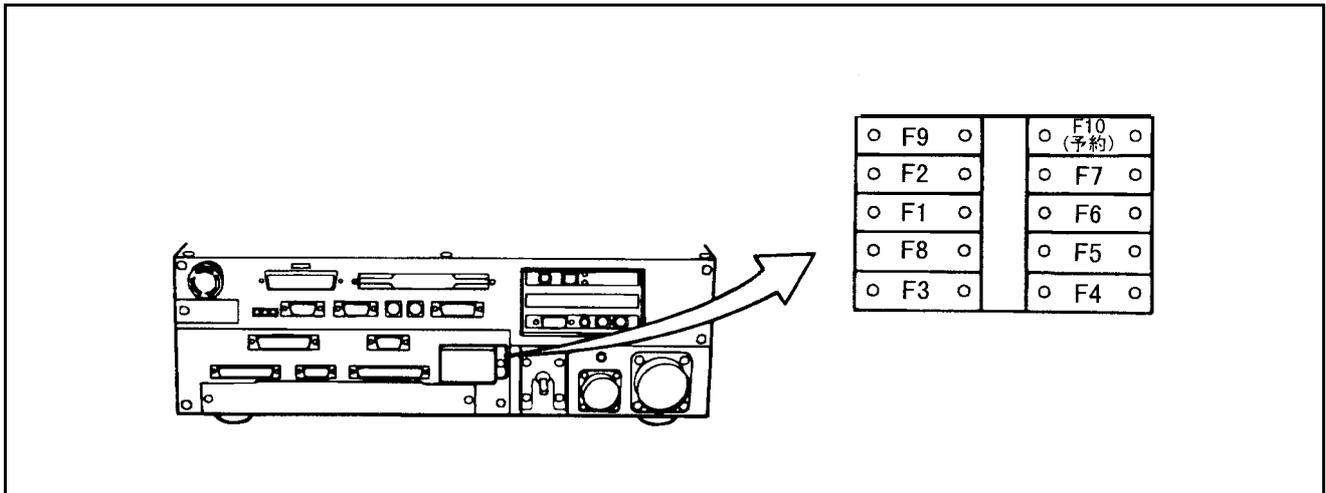
No	品名	推奨工具(メーカー)	用途
1	グリスガン	(ヤマダコーポレーション) ・本体: KH-32 ・フレキシブルアタッチメント: SPK-3C	グリスの補給

### 3.6 ヒューズの交換

外部配線の短絡等からロボットコントローラを保護するために、ロボットコントローラにはヒューズが装着されています。

ヒューズが溶断した場合は、以下に説明する手順に従って交換してください。

ヒューズが装着されているヒューズボックスは、ロボットコントローラのパネルにあります。下図を参照してください。



ヒューズの位置と名称

下表に、各ヒューズと対応する出力コネクタを示します。  
出力信号に異常があるときは、対応するヒューズを点検してください。

各ヒューズと対応する出力コネクタ

コネクタNo.	コネクタ端子No.	出力IC No.	ヒューズNo.	
I/O POWER CN7	1	—	F1	
	2	—	(1.3A)	
	3	—	F2	
	4	—	(1.3A)	
HAND I/O CN9	17	—	F3(1.3A)	
	1	IC 1	F4 (1.3A)	
	2			
	3			
	4			
	5			
	6			
	7			
8				
OUTPUT CN10	1	IC 2	F5 (1.3A)	
	2			
	3			
	4			
	5			
	6			
	7			
	8			
	9	IC 3		
	10			
	11			
	12			
	13			
	14			
	15			
	16			
	17	IC 4		
	18			
	19			
	20			
	21			
	22			
	23			
	24			
25	IC 5	F6 (1.3A)		
26				
27				
28				
29				
30				
31				
32				
33	IC 6			
34				
35				
36				
37				
38				
39				
40				
41	IC 7		F7 (1.3A)	
42				
43				
44				
45				
46				
47				
48				
49	IC 8			
50				
51				
52				
53				
54				
55				
56				
65	—	F9(0.3A)		
INPUT CN8	1	—		F8
	3	—		(1.3A)

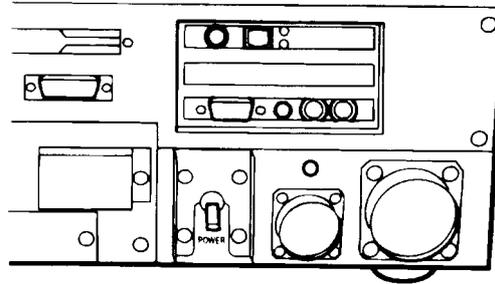
注意：コネクタのピン配列については、「RC5コントローラ インタフェース 説明書」を参照してください。

### 3.6.1 ヒューズの交換方法

ヒューズの交換は、以下に説明する手順に従って行なってください。

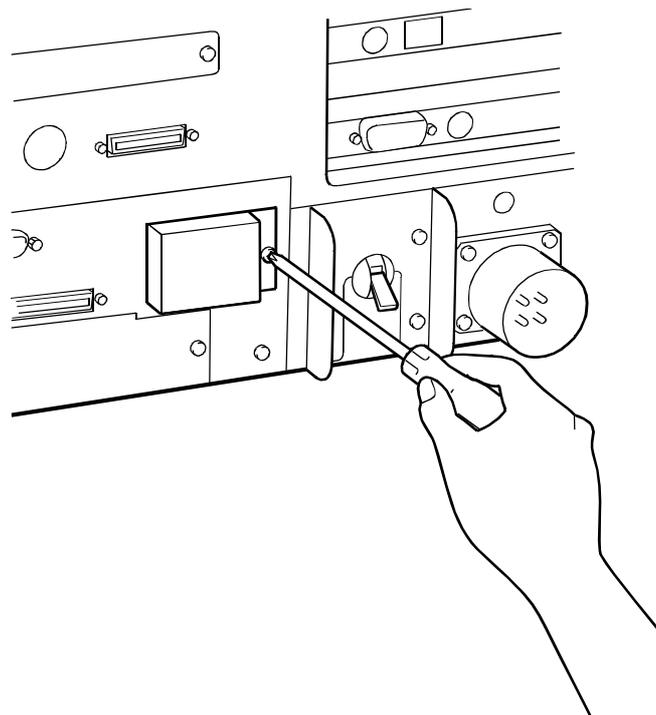
#### ▶ STEP 1

ロボットコントローラの電源スイッチを切りにします。



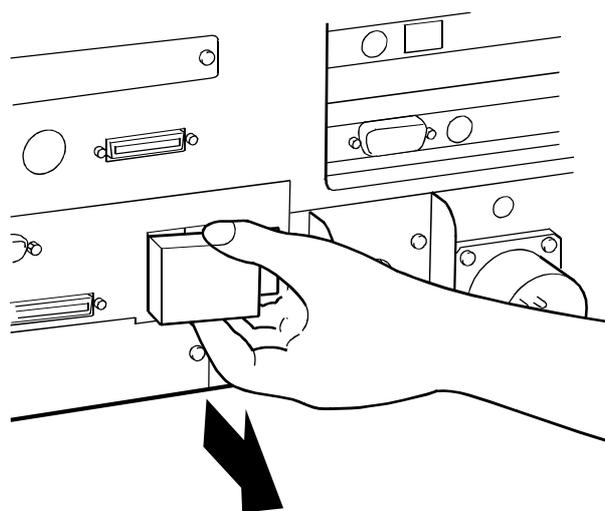
#### ▶ STEP 2

ヒューズカバー取付ビスを、ドライバでまわしてはずします。



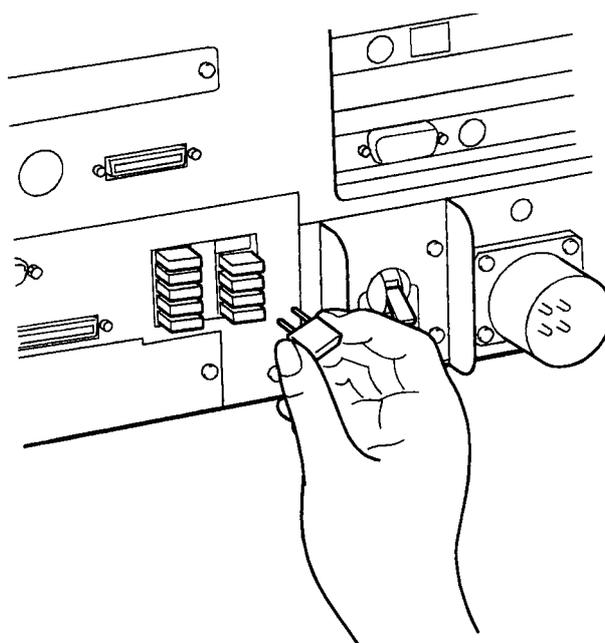
▶ STEP 3

ヒューズカバーをはずします。



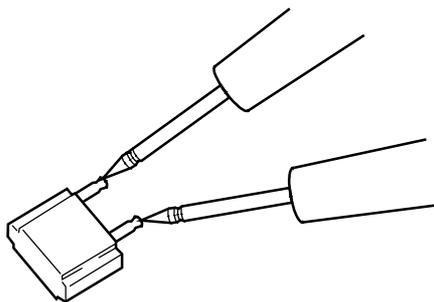
▶ STEP 4

ヒューズを引き抜きます。



## ▶ STEP 5

引き抜いたヒューズの導通を、テスターで調べます。



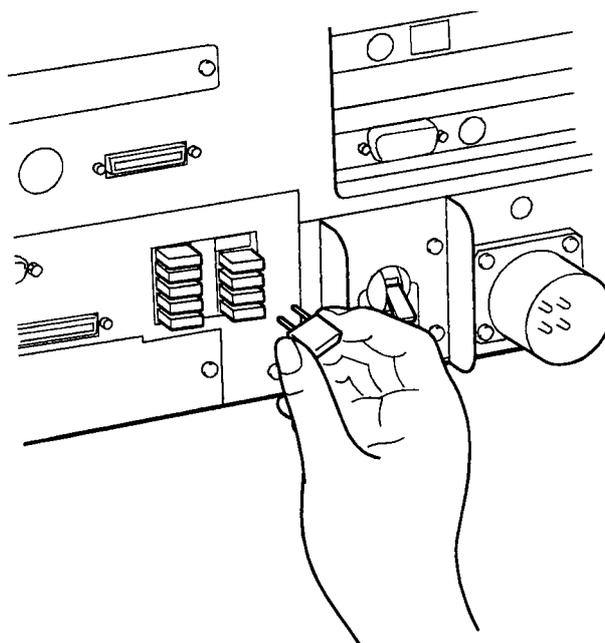
## ▶ STEP 6

STEP 5で、ヒューズの導通がなかった場合：

- ①対応する出力コネクタの配線などを点検し、ヒューズ溶断の原因をとり除きます。
- ②新しいヒューズを、ヒューズボックスの元の位置にさし込みます。

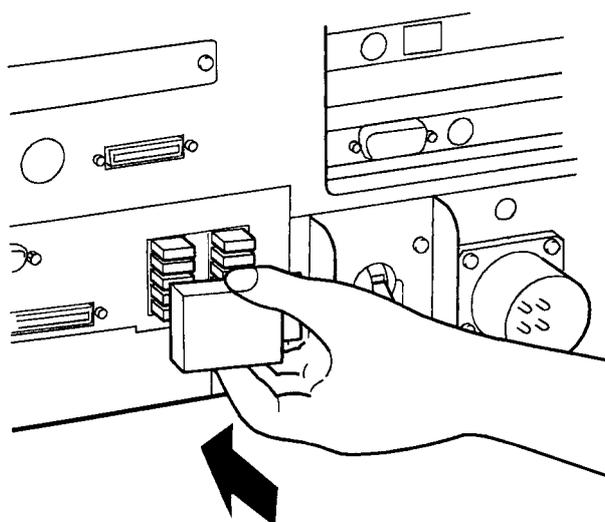
STEP 5で、ヒューズの導通があった場合：

ヒューズをヒューズボックスの元の位置にさし込みます。



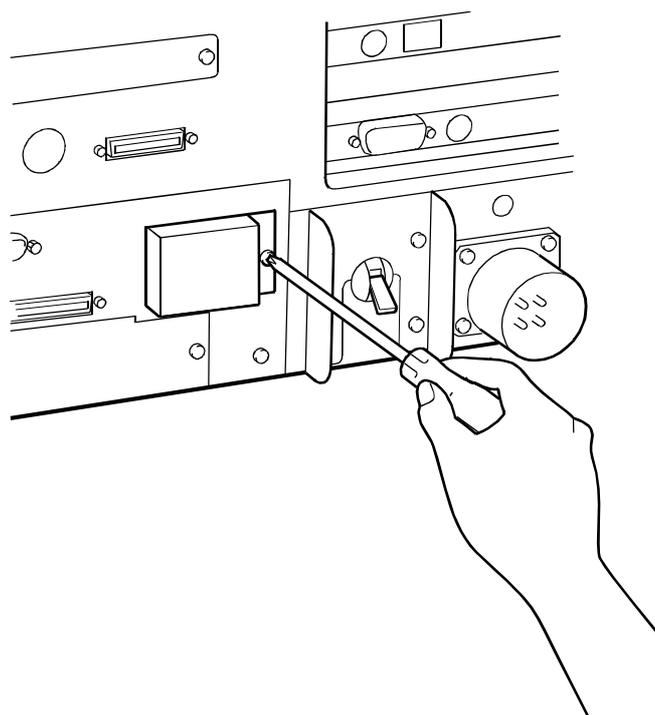
## ▶ STEP 7

ヒューズカバーを、ロボットコントローラに取り付けます。



## ▶ STEP 8

ヒューズカバー取付ビスを、ドライバでまわし取り付けます。

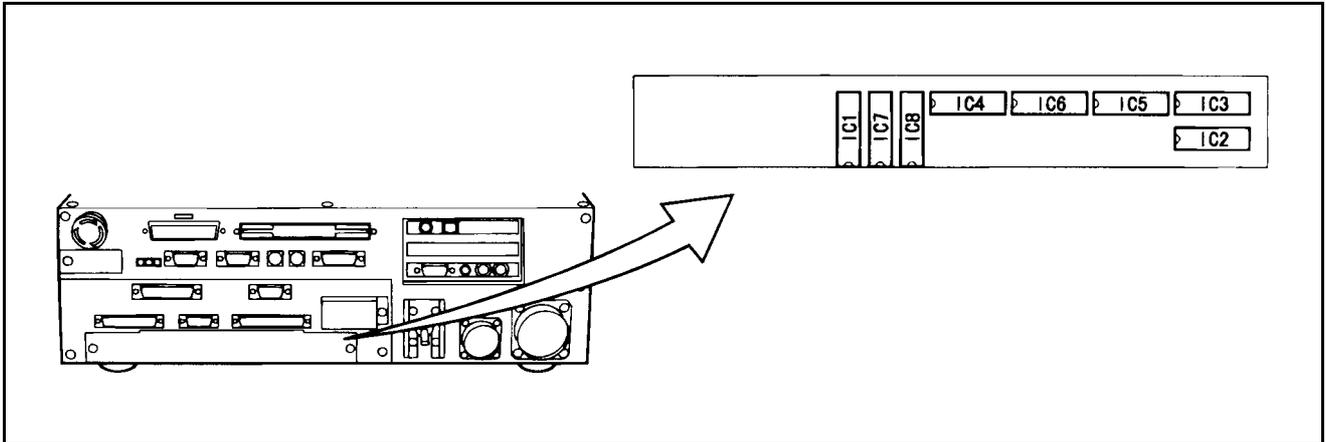


ビス締め付けトルク：  $0.6 \pm 0.2 \text{Nm}$

### 3.7 出力用 IC の交換

出力用ヒューズを交換しても、出力信号が正常に復帰しない場合は、出力用ICの交換が必要となります。

出力用ICは、下図に示すようにロボットコントローラのパネルの中にあります。



出力用ICの位置と名称

出力信号と該当するIC番号および、ヒューズの対応一覧を次ページに示します。

出力用IC番号・ヒューズ対応表

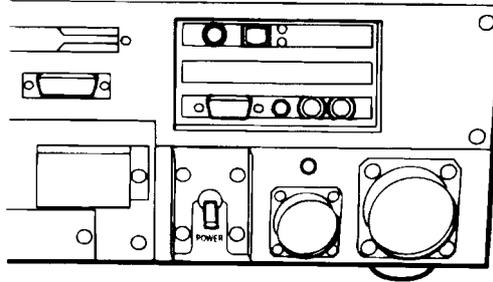
コネクタNo.	コネクタ端子No.	I/OポートNo.	出力IC No.	ヒューズNo.
HAND I/O CN9	1	64	IC 1	F4 (1.3A)
	2	65		
	3	66		
	4	67		
	5	68		
	6	69		
	7	70		
	8	71		
OUTPUT CN10	1	72	IC 2	F4 (1.3A)
	2	73		
	3	74		
	4	75		
	5	76		
	6	77		
	7	78		
	8	79		
	9	80	IC 3	F5 (1.3A)
	10	81		
	11	82		
	12	83		
	13	84		
	14	85		
	15	86		
	16	87		
	17	88	IC 4	F5 (1.3A)
	18	89		
	19	90		
	20	91		
	21	92		
	22	93		
	23	94		
	24	95		
	25	96	IC 5	F6 (1.3A)
	26	97		
	27	98		
	28	99		
	29	100		
	30	101		
	31	102		
	32	103		
	33	104	IC 6	F6 (1.3A)
	34	105		
	35	106		
	36	107		
	37	108		
	38	109		
	39	110		
	40	111		
	41	112	IC 7	F7 (1.3A)
	42	113		
	43	114		
	44	115		
	45	116		
	46	117		
	47	118		
	48	119		
	49	120	IC 8	F7 (1.3A)
	50	121		
	51	122		
	52	123		
	53	124		
	54	125		
	55	126		
	56	127		

### 3.7.1 出力用 IC の交換

出力用ICの交換は、以下に説明する手順に従って行なってください。

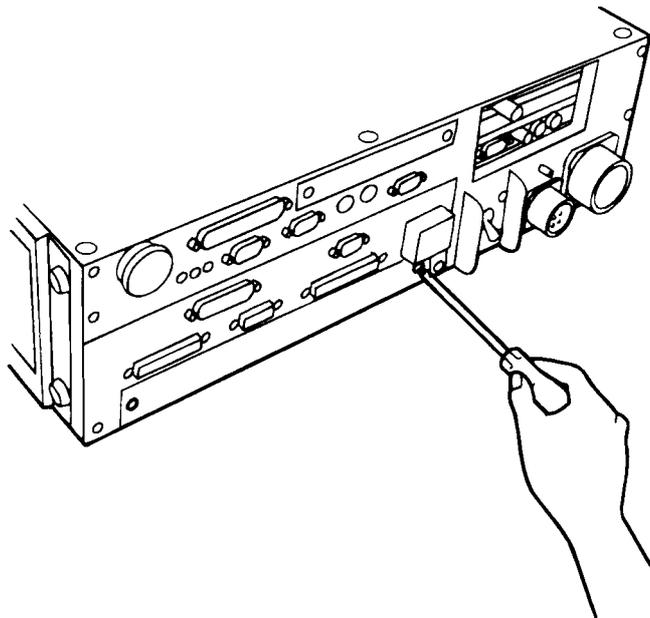
#### ▶ STEP 1

ロボットコントローラの電源スイッチを切りにします。



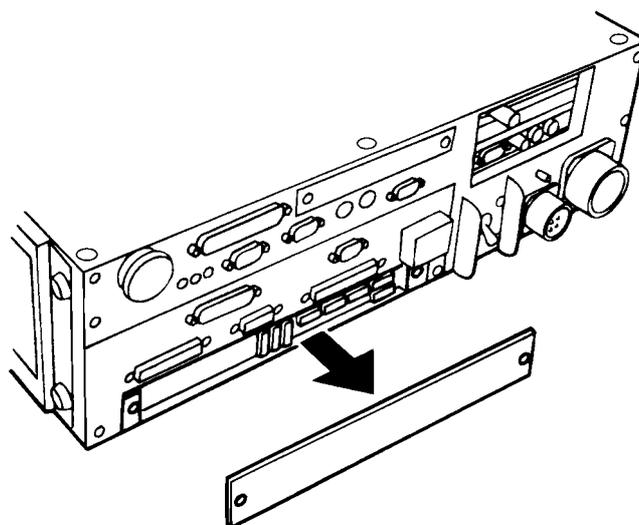
#### ▶ STEP 2

出力用ICカバー取付ビス(2本)を、ドライバで回してはずします。



## ▶ STEP 3

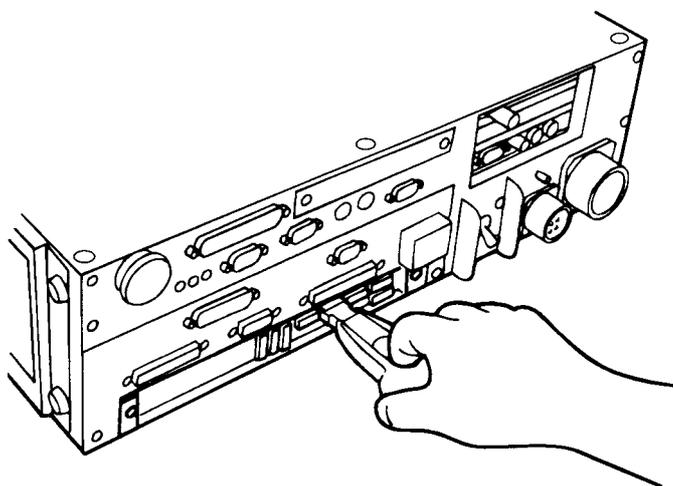
出力用ICカバーをはずします。



## ▶ STEP 4

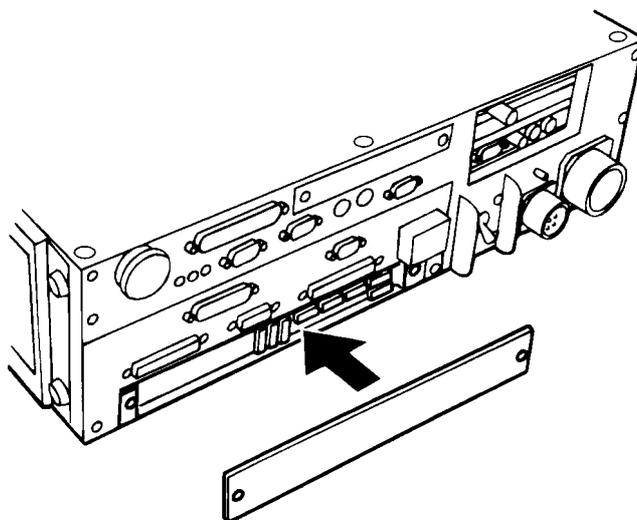
プリント基板上的表示「IC 1~8」を確認し、該当の出力用ICをIC抜き工具で取りはずし交換してください。

-  注意 ① 出力用 IC の破損の場合は、破壊原因を処置した上で新しい出力用 IC に交換してください。
- ② 各プリント基板上的の素子およびその端子に直接手を触れないでください。



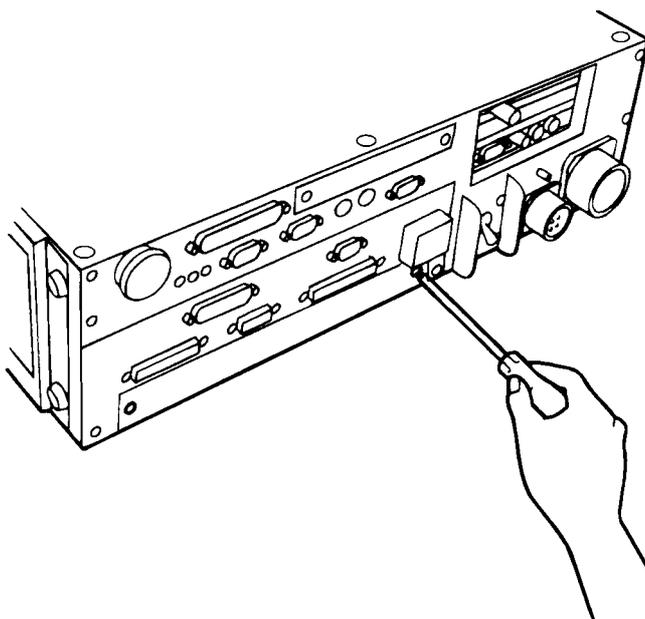
## ▶ STEP 5

出力用ICカバーを、ロボットコントローラに取り付けます。



## ▶ STEP 6

出力用ICカバーを、取付ビス(2本)で固定します。



ビス締め付けトルク：  $0.6 \pm 0.2$  Nm

## 3.8 動作／積算距離の確認

ロボットの工場出荷段階からの各軸単位での積算距離とリセット後の動作距離を知ることができます。

「総動作距離」ウィンドウには次の項目が表示されます。

総動作：工場出荷後からの各軸単位での総動作距離を表示します。リセットはできません。

動作距離：工場出荷後、またはユーザにてリセットされた後の各軸単位での動作距離を表示します。この画面で [F5 リセット] を押し、画面にしたがって操作することにより、リセット (=0) できます。

### 3.8.1 動作／積算距離の表示

▶ **STEP 1** | ロボットコントローラの電源スイッチを入りにします。

▶ **STEP 2** | ティーチングペンダントのモード切替スイッチを [MANUAL] にします。

▶ **STEP 3** | 基本画面で [F6 設定] を押します。  
[設定 (メイン)] ウィンドウが表示されます。



[F6 保守] を押します。

## STEP 4

[保守設定] ウィンドウが表示されます。



[F5 動作距離] を押します。

## STEP 5

[動作距離] ウィンドウが表示されます。



単位は J 1、J 2、J 4 が回転数で、J 3 が m です。

### 3.8.2 動作距離のリセット

#### ▶ STEP 1

基本画面で[F6 設定]を押します。  
[設定 (メイン)]ウインドウが表示されます。



F6

[F6 保守]を押します。

#### ▶ STEP 2

[保守設定]ウインドウが表示されます。

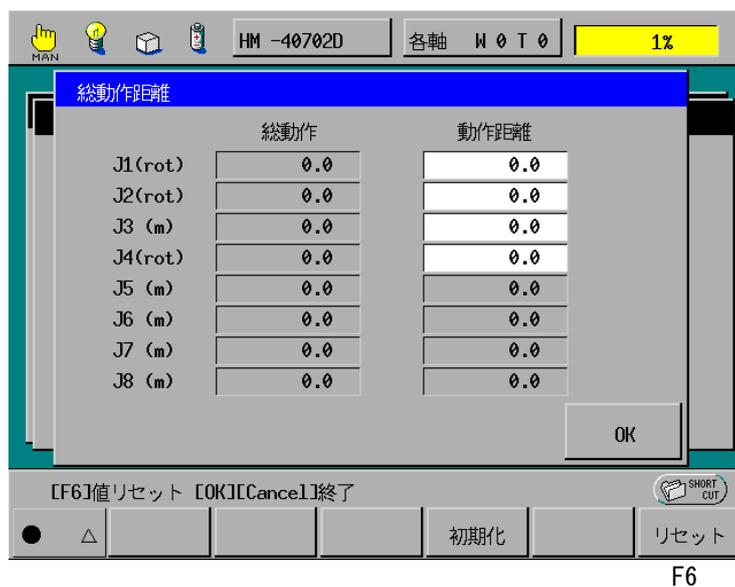


F5

[F5 動作距離]を押します。

### STEP 3

[動作距離] ウィンドウが表示されます。



[F6 リセット]を押します。

### STEP 4

[リセット] ウィンドウが表示されます。



[OK]を押します。  
動作距離が初期化されました。

### 3.9 通電時間および稼働時間の確認／リセット

コントローラ／ロボットの各種通電時間を確認することが出来ます。確認可能な時間は下記の通りです。

総通電時間：出荷後からのコントローラ電源入り時間の総計

総稼働時間：出荷後からのモータ電源入り時間の総計

累積通電時間：リセット後からのコントローラ電源入り時間の総計

累積稼働時間：リセット後からのモータ電源入り時間の総計

電源入り通電時間：コントローラ電源入り後の時間

電源入り稼働時間：コントローラ電源入り後のモータ電源入り時間

累積総通電時間、累積稼働時間以外は値をリセットすることはできません。

#### 3.9.1 通電時間の確認

▶ **STEP 1** | ロボットコントローラの電源スイッチを入りにします。

▶ **STEP 2** | ティーチングペンダントのモード切替スイッチを [MANUAL] にします。

▶ **STEP 3** | 基本画面で[F6 設定]を押します。  
[設定 (メイン)]ウインドウが表示されます。



F6

[F6 保守]を押します。

## STEP 4

[保守設定] ウィンドウが表示されます。

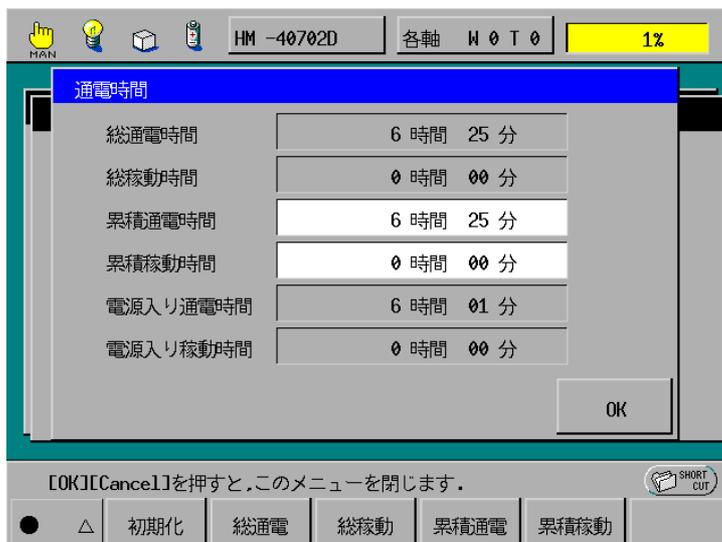


F1

[F1 稼働時間] を押します。

## STEP 5

[稼働時間] ウィンドウが表示されます。



総通電時間：出荷後からのコントローラ電源入り時間の総計  
 総稼働時間：出荷後からのモータ電源入り時間の総計  
 累積通電時間：リセット後からのコントローラ電源入り時間の総計  
 累積稼働時間：リセット後からのモータ電源入り時間の総計  
 電源入り通電時間：コントローラ電源入り後の時間  
 電源入り稼働時間：コントローラ電源入り後のモータ電源入り時間

### 3.9.2 通電時間および稼働時間のリセット

#### ▶ STEP 1

基本画面で[F6 設定]を押します。  
[設定 (メイン)]ウインドウが表示されます。



F6

[F6 保守]を押します。

#### ▶ STEP 2

[保守設定]ウインドウが表示されます。

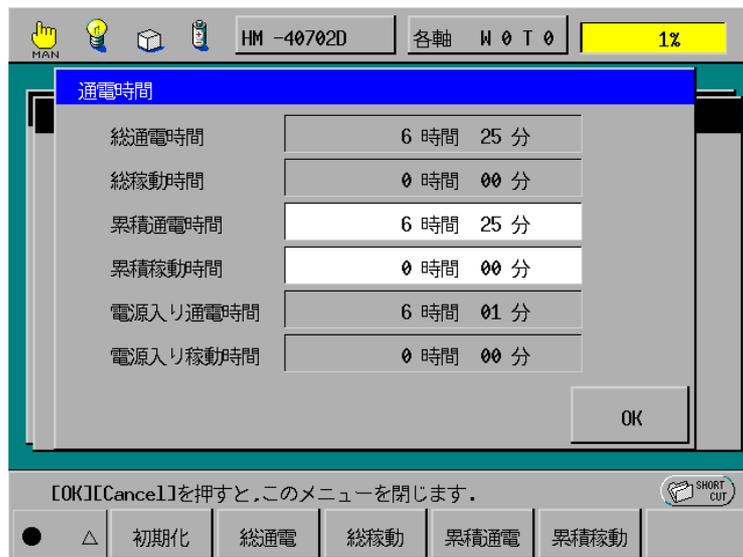


F1

[F1 稼働時間]を押します。

### STEP 3

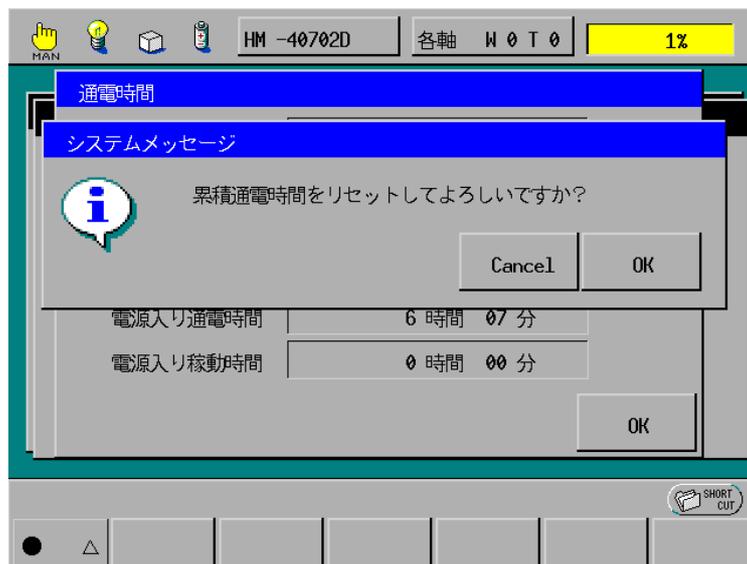
[稼働時間] ウィンドウが表示されます。



F4

累積通電時間をリセットする例を示します。  
[F4 累積通電]を押します。

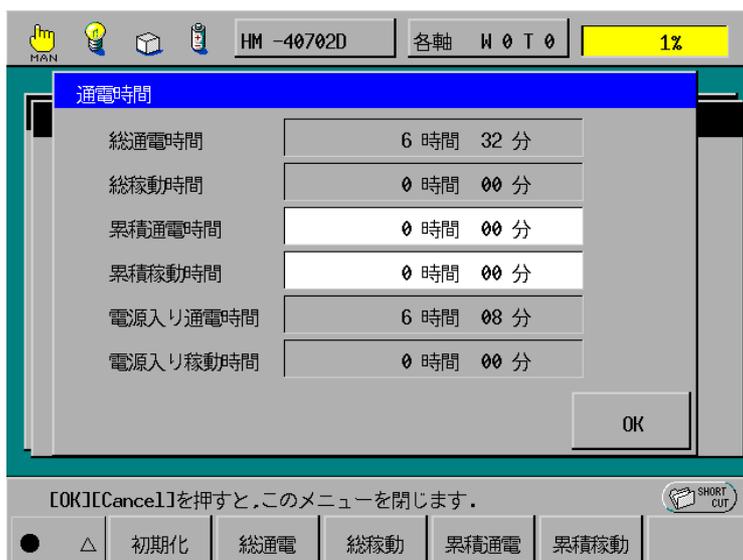
### STEP 4



[OK]を押します。

# STEP 5

累積通電時間がリセットされました。



### 3.10 初期設定フロッピーディスクの使用方法

初期設定フロッピーディスクには、WINCAPS II形式のアームデータがセーブされています。（ファイル名 = \*.arm）

ディスク内データをコントローラに転送するには、下記の2ステップで行います。

- (1) ディスク内データを使ってプロジェクトを作成する。
- (2) そのプロジェクト内の軌道生成ファイルをコントローラに転送する。

#### 転送用プロジェクトの作成

## STEP 1

#### 新規プロジェクトの作成

WINCAPS IIを起動し、システムマネージャから新規プロジェクトの作成を実行します。



【プロジェクトの新規作成メニュー】

## STEP 2

#### ロボットタイプの選択

転送するコントローラと同一のタイプを選択します。

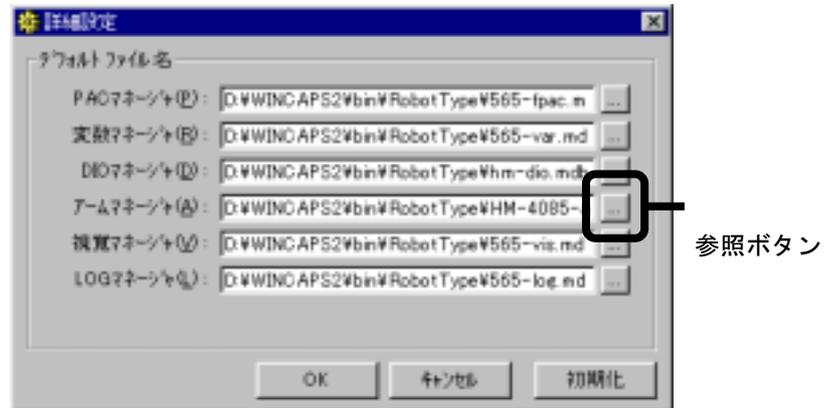


【プロジェクトの新規作成画面】

## STEP 3

### アームデータの選択

(1) [詳細設定] ボタンを押し、詳細設定画面を表示させます。



(2) アームマネージャの [参照] ボタンを押し、「プロジェクトを開く」画面を表示させます。

ディスク内のデータを指定し、[開く] ボタンを押します。



(3) 画面は、【詳細設定画面】に戻りますので、[OK] ボタンを押します。

## STEP 4

### プロジェクトの作成

【プロジェクトの新規作成画面】で、[OK] ボタン を押します。以上で転送用のプロジェクトが作成されます。

## 起動生成ファイルの転送

### ▶ STEP 1

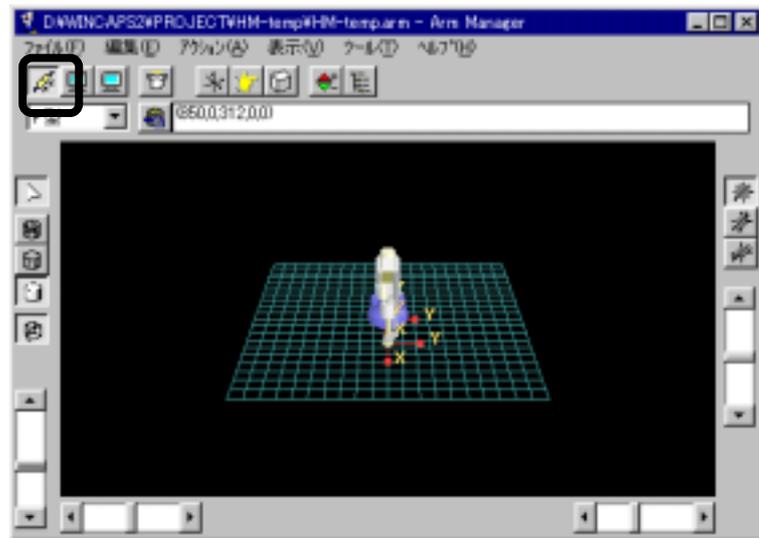
#### アームマネージャの起動

システムマネージャから、アームマネージャを起動させます。

### ▶ STEP 2

#### コントローラとの接続

[接続] ボタンを押し、コントローラと接続します。



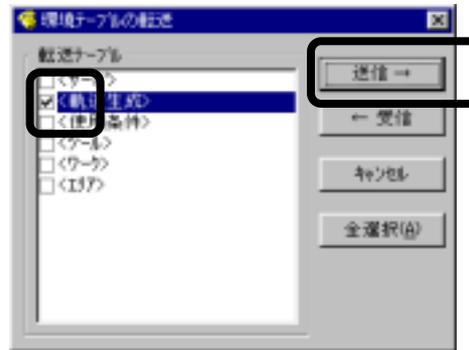
【アームマネージャ画面】

## ▶ STEP 3

### データの転送

#### (1) 転送画面の表示

【アームマネージャ画面】の「ファイル」メニューから、「転送」を選択します。



【環境テーブルの転送画面】

#### (2) 転送ファイルの選択と、送信

[転送テーブル] から<軌道生成>を選択し、[送信] ボタンを押します。

#### (3) 軌道生成ファイルの送信

下記、【送信確認ダイアログ】が表示されますので、[はい] ボタンを押します。



【送信確認ダイアログ】

【使用条件転送ダイアログ】が表示されますので、[OK] ボタンを押します。



【使用条件転送ダイアログ】

データ転送中は、【軌道生成テーブル転送ダイアログ】が表示されます。



【軌道生成テーブル転送ダイアログ】

(4) 転送完了

転送が完了すると、下記の【送信完了メッセージ】が表示されますので、[OK] ボタンを押します。以上で、初期フロッピーディスク内のアームデータがコントローラに転送されました。

コントローラを再起動させてください。



【送信完了メッセージ】



# 索引

## 数字・記号

- 2年点検 ..... [46](#)
- 3ヶ月点検 ..... [39](#), [45](#)

## C

- CALSET ..... [26](#)

## う

- 運搬 ..... [5](#)

## え

- エアー配管 ..... [13](#)
- エアーバランス ..... [15](#)
- エンコーダバックアップ電池の交換 ..... [47](#)

## か

- 壁掛け型設置 ..... [12](#)
- 慣性モーメント計算式 ..... [18](#)

## き

- 起動生成ファイル ..... [77](#)
- 給油作業 ..... [45](#)

## さ

- 最適可搬質量設定機能 ..... [35](#)

## し

- 周囲温度・湿度 ..... [2](#)
- 出力用 IC の交換 ..... [61](#)
- 初期設定フロッピィディスク ..... [75](#)
- 自立据え置き型設置 ..... [11](#)
- 振動 ..... [2](#)

## す

- 推奨工具 ..... [54](#)

## せ

- 接地 ..... [8](#)
- 設置環境の条件 ..... [1](#)

## そ

- ソフトウェアリミット ..... [20](#)

## つ

- 通電時間の確認 ..... [70](#)

## て

- 電気配線 ..... [13](#)
- 点検 ..... [36](#)
- 転送用プロジェクト ..... [75](#)

## と

- 動作積算距離の確認 ..... [66](#)
- 動作範囲 ..... [20](#)

## に

- 日常点検 ..... [37](#)

## は

- バックアップ電池 ..... [46](#)
- ハンド ..... [16](#)

## ひ

- ヒューズの交換 ..... [55](#)
- ヒューズの交換方法 ..... [57](#)
- 標準設置 ..... [7](#)

## ふ

- フィルタの清掃 ..... [40](#)

## ほ

- 保守 ..... [36](#)
- 保守用消耗品 ..... [54](#)

## め

- メモリバックアップ電池の交換 ..... [49](#)

## ろ

- ロボットの仕様変更 ..... [19](#)



# 直角座標デンソーロボット XYC-4D シリーズ

---

設置・保守ガイド

初 版 2002 年 5 月

株式会社デンソーウェーブ FA 事業部

3D50C

---

- この取扱説明書の一部または全部を無断で複製・転載することはお断りします。
- この説明書の内容は将来予告なしに変更することがあります。
- 本書の内容については、万全を期して作成いたしましたが、万一ご不審の点や誤り、記載もれなど、お気づきの点がありましたら、ご連絡ください。
- 運用した結果の影響については、上項にかかわらず責任を負いかねますのでご了承ください。

